



オール東京 62 市区町村共同事業
「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」

気候変動に関する住民意識調査
住民WEBアンケート結果報告

2020（令和2）年12月

目 次

(頁)

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査体制	1
2. 回答者の属性	2
3. 調査結果	4
(1) 気候変動問題への関心	4
(2) 気候変動問題に対する考え	6
(3) 身近な地域での気候変化の実感	8
(4) 身近な地域での将来の気候変化の予想	11
(5) 気候変動影響に対する不安感	14
(6) 身近な地域で優先的に進めていくべき適応策の分野	19
(7) 啓発パンフレットを見た感想	22
(8) 啓発パンフレットを見たうえでの気候変動適応に対する考え方	26
(9) 個人でできる適応策の取組状況、今後の意向	29
(10) 気候の変化や影響等について必要な情報	34

1. 調査概要

(1) 調査目的

地球温暖化により、世界中で強い台風やハリケーン、集中豪雨、干ばつや熱波などの異常気象・気象災害が頻発するようになっている。このような影響は、今後さらに深刻になっていくと考えられており、「気候危機」とも呼ばれるほどである。

そこで、今後の自治体による気候変動対策の施策立案に役立てていくため、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の一環で、東京都内にお住まいの方(2,000人)を対象として、気候変動に伴う暮らしや身近の周りでの変化・影響に対する住民の意識・ニーズを把握するWEBアンケートを実施した。

(2) 調査期間

2020年10月20日(火)～10月25日(日)

(3) 調査方法

調査方法：インターネット調査(株式会社マクロミルが提供するオンラインアンケートシステムを使用)

調査対象：調査会社モニター(GMOリサーチ株式会社が運営する国内最大級のインターネットリサーチ用パネル「Japan Cloud Panel」)の東京都在住者2,000人

(4) 調査体制

調査実施主体：オール東京62気候変動適応策研究会

主催・企画：公益財団法人東京市町村自治調査会

調査機関：運営事務局(アオイ環境株式会社)

2. 回答者の属性

東京都在住者 2,000 人について、居住する市区町村及び性別・年齢は、以下のとおりである。

なお、本報告書では、「区部（沿岸部）」「島しょ部」について自然的条件や災害リスクが類似しているとみて、合わせて集計している。

表 2-1 回答者属性（市区町村）

【区部（沿岸部）・島しょ部】			【区部（内陸部）】			【多摩部】		
自治体名	回答者数	備考	自治体名	回答者数	備考	自治体名	回答者数	備考
中央区	24	区部（沿岸部）	千代田区	10		八王子市	86	
港区	39	区部（沿岸部）	新宿区	59		立川市	27	
江東区	77	区部（沿岸部）	文京区	34		武蔵野市	24	
品川区	61	区部（沿岸部）	台東区	32		三鷹市	27	
大田区	108	区部（沿岸部）	墨田区	42		青梅市	8	
江戸川区	93	区部（沿岸部）	目黒区	41		府中市	38	
大島町	0	島しょ部	世田谷区	138		昭島市	9	
利島村	0	島しょ部	渋谷区	36		調布市	34	
新島村	1	島しょ部	中野区	51		町田市	64	
神津島村	0	島しょ部	杉並区	87		小金井市	20	
三宅村	0	島しょ部	豊島区	45		小平市	28	
御蔵島村	0	島しょ部	北区	52		日野市	28	
八丈町	0	島しょ部	荒川区	32		東村山市	20	
青ヶ島村	1	島しょ部	板橋区	85		国分寺市	16	
小笠原村	1	島しょ部	練馬区	113		国立市	13	
合計	405		足立区	99		福生市	8	
			葛飾区	60		狛江市	12	
			合計	1,016		東大和市	12	
						清瀬市	7	
						東久留米市	11	
						武蔵村山市	7	
						多摩市	21	
						稲城市	13	
						羽村市	4	
						あきる野市	7	
						西東京市	31	
						瑞穂町	1	
						日の出町	2	
						檜原村	1	
						奥多摩町	0	
						合計	579	

表 2-2 回答者属性（性別・年齢、居住地）

(人)

性別	年齢	区部（沿岸部） ・島しょ部	区部（内陸部）	多摩部	合計
男性	10代	8	46	33	87
	20代	32	89	48	169
	30代	40	96	70	206
	40代	57	101	64	222
	50代	40	84	46	170
	60代以上	33	79	49	161
	合計	210	495	310	1,015
女性	10代	14	61	29	104
	20代	32	84	42	158
	30代	46	96	51	193
	40代	41	104	68	213
	50代	32	90	38	160
	60代以上	30	86	41	157
	合計	195	521	269	985
合計	10代	22	107	62	191
	20代	64	173	90	327
	30代	86	192	121	399
	40代	98	205	132	435
	50代	72	174	84	330
	60代以上	63	165	90	318
	合計	405	1,016	579	2,000

(%)

性別	年齢	区部（沿岸部） ・島しょ部	区部（内陸部）	多摩部	合計
男性	10代	0.4	2.3	1.7	4.4
	20代	1.6	4.5	2.4	8.5
	30代	2.0	4.8	3.5	10.3
	40代	2.9	5.1	3.2	11.1
	50代	2.0	4.2	2.3	8.5
	60代以上	1.7	4.0	2.5	8.1
	合計	10.5	24.8	15.5	50.8
女性	10代	0.7	3.1	1.5	5.2
	20代	1.6	4.2	2.1	7.9
	30代	2.3	4.8	2.6	9.7
	40代	2.1	5.2	3.4	10.7
	50代	1.6	4.5	1.9	8.0
	60代以上	1.5	4.3	2.1	7.9
	合計	9.8	26.1	13.5	49.3
合計	10代	1.1	5.4	3.1	9.6
	20代	3.2	8.7	4.5	16.4
	30代	4.3	9.6	6.1	20.0
	40代	4.9	10.3	6.6	21.8
	50代	3.6	8.7	4.2	16.5
	60代以上	3.2	8.3	4.5	15.9
	合計	20.3	50.8	29.0	100.0

3. 調査結果

注) 本報告書では、回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、単一選択式の質問では、回答比率を合計しても 100.0%にならないことがある。

(1) 気候変動問題への関心

気候変動問題に「①関心がある」(23.6%)と「②ある程度関心がある」(50.8%)を合わせた関心がある人は7割を超えた。

【地域別】関心がある人は、多摩部が最も高く(78.2%)、区部(沿岸部)・島しょ部(74.5%)、区部(内陸部)(72.0%)と続いている。

【年齢別】関心がある人の比率は、10代が70%を超えたのに対し、20代は60%程度である。30代以降は年齢層が上がるほど、関心が高まる。

【男女別】関心がある人の比率は、女性(77.8%)の方が、男性(70.9%)よりも高い。

Q1 地球温暖化により、世界中で台風や大雨、猛暑、異常気象などの気候の変化が進みつつあります。あなたは、このような気候変動の問題に対し、関心を持っていますか。
(あてはまるものを1つ選択)

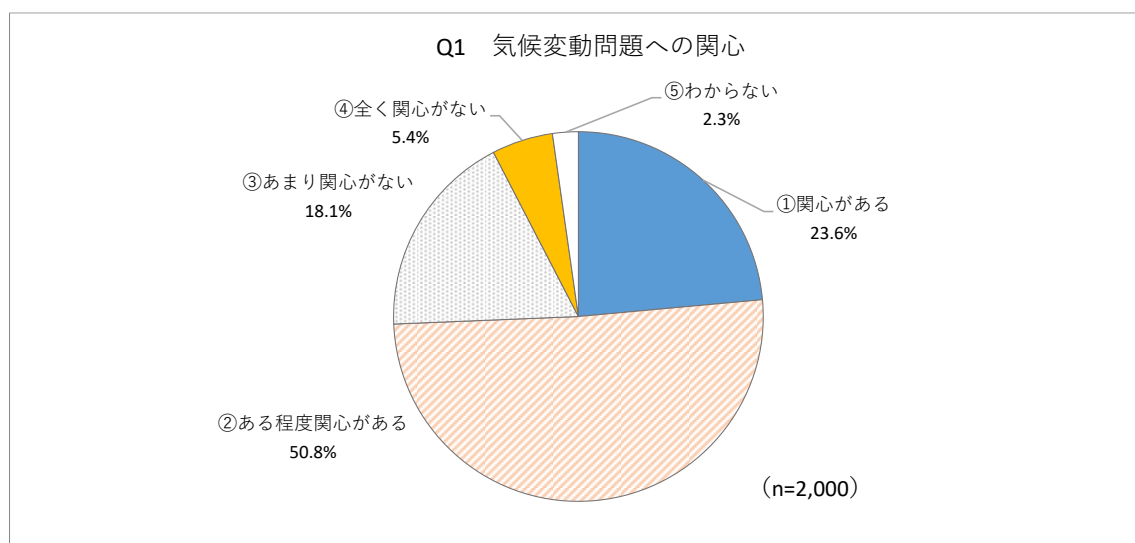


図 3-1-1 気候変動問題への関心 (全体)

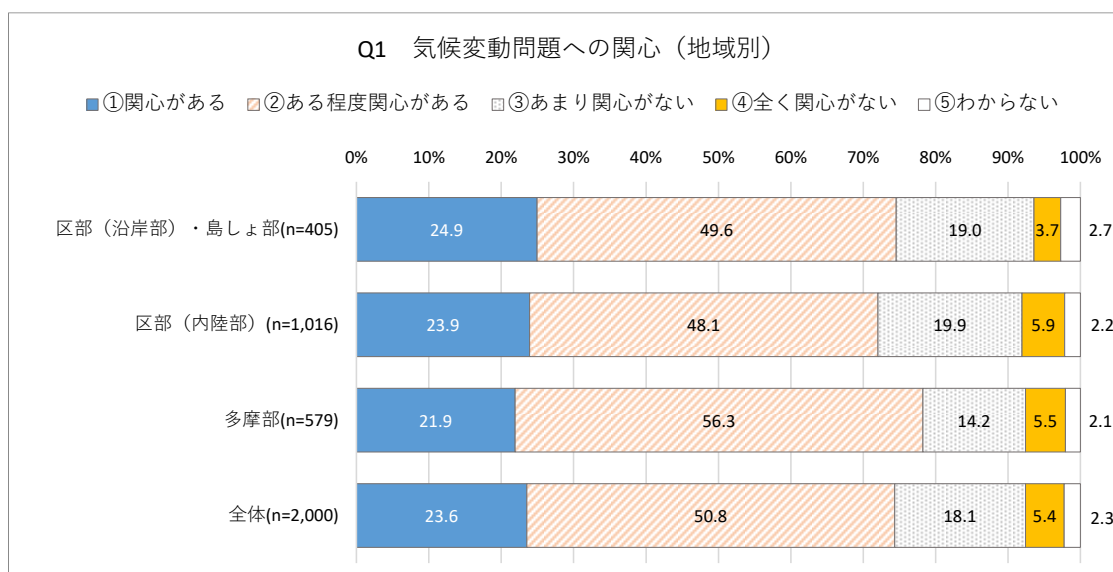


図 3-1-2 気候変動問題への関心（地域別）

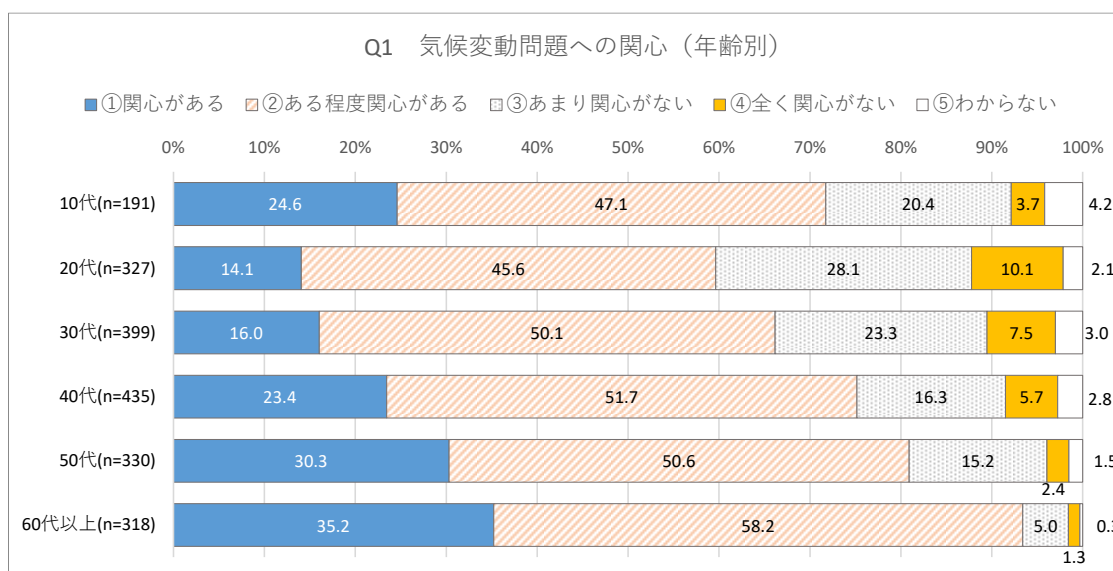


図 3-1-3 気候変動問題への関心（年齢別）

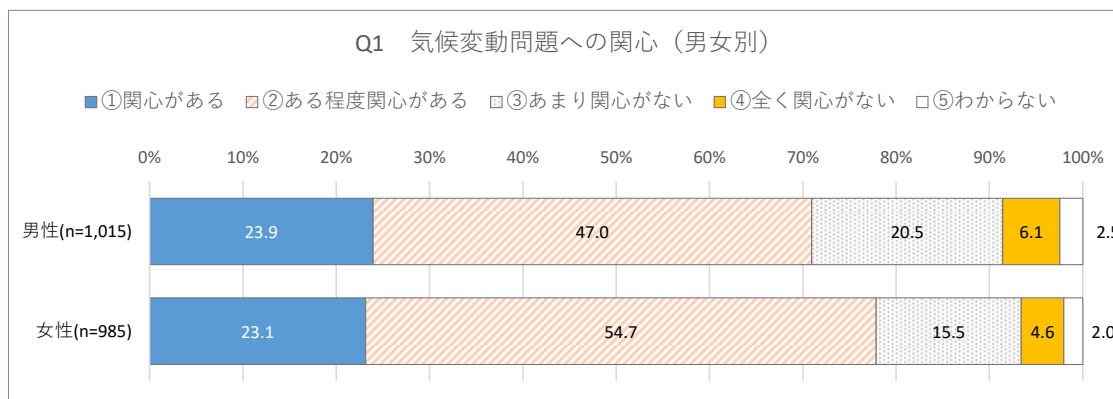


図 3-1-4 気候変動問題への関心（男女別）

(2) 気候変動問題に対する考え

気候変動問題に対する考えを聞いたところ、「②今から対策を強化すれば、ある程度厳しい状況を和らげることができるが、影響は避けられない」(62.4%)が最も高かった。この②と「③今から対策を強化すれば、厳しい状況にはならない」(8.1%)を合わせた、対策強化に肯定的な回答をした人は70.5%であった。

一方、「①今後、地球温暖化がさらにひどくなり、対策を強化したとしても、解決にはつながらない」と対策強化に否定的な回答をした人は14.7%であった。

【地域別】対策強化に肯定的な人の比率は、地域間で大きな差はない。

【年齢別】どの年齢階層でも、6割以上が、対策強化に肯定的である。

【男女別】対策強化に肯定的な人の比率は、女性(74.0%)の方が、男性(67.0%)よりも高い。

Q2 今後、省エネルギー対策や再生可能エネルギー利用をさらに強化しないと、地球の平均気温は、21世紀末に最大4度以上上昇すると予測されています。

地球温暖化が進むことにより生活や経済社会、自然環境への影響が懸念されますが、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。

(あてはまるものを1つ選択)

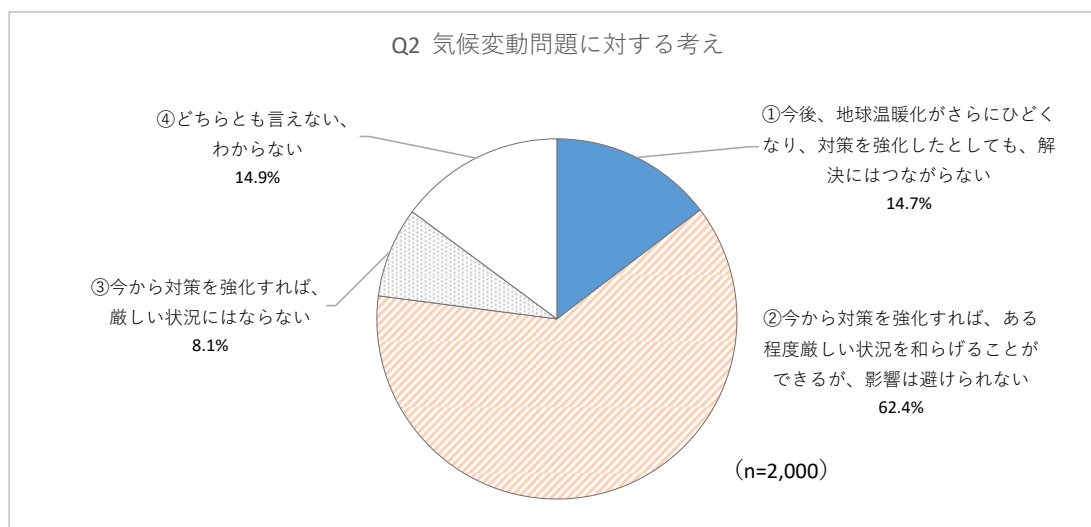


図 3-2-1 気候変動問題に対する考え (全体)

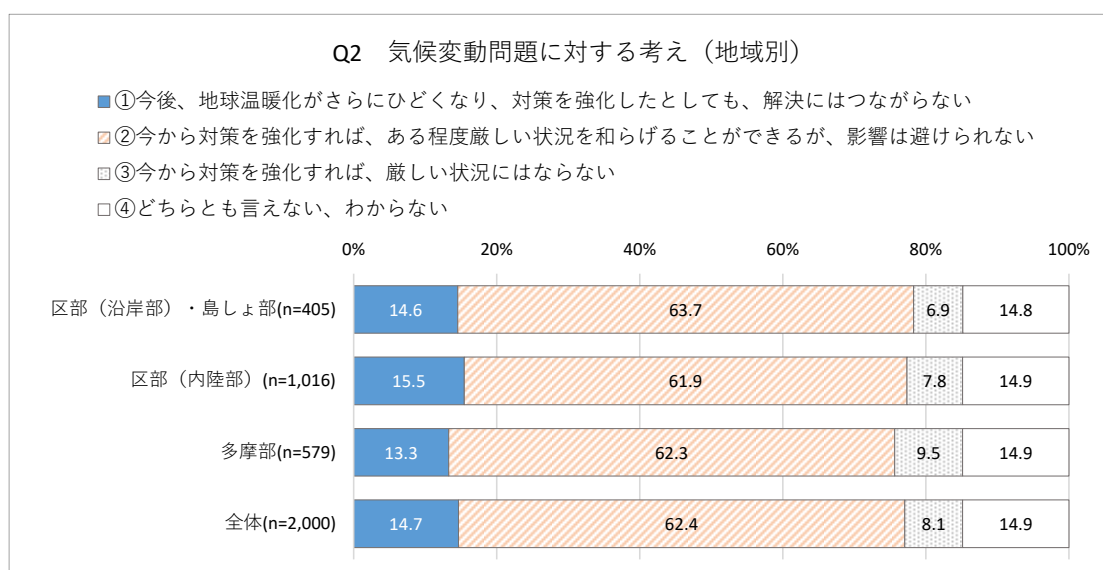


図 3-2-2 気候変動問題に対する考え（地域別）

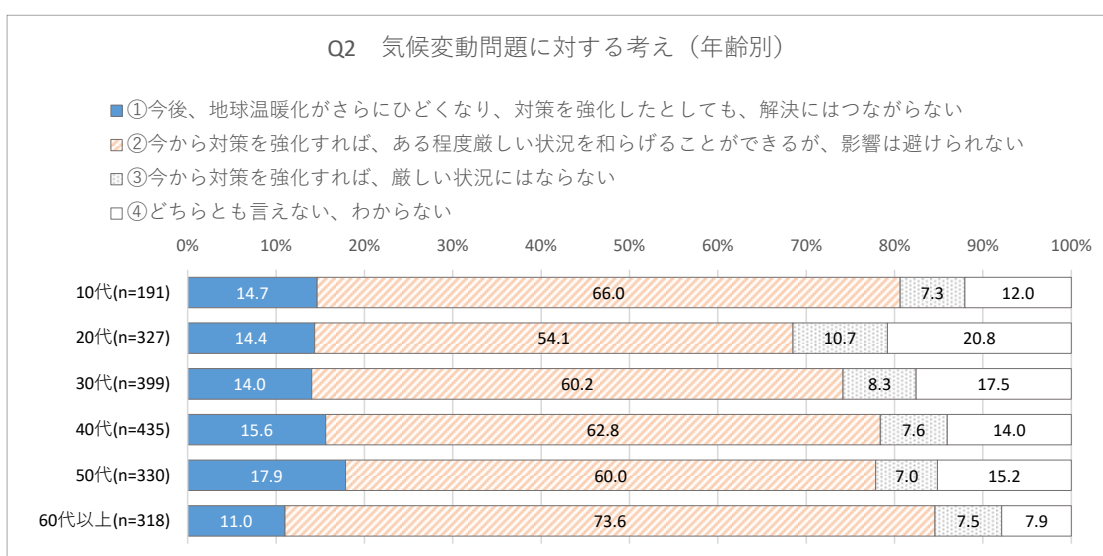


図 3-2-3 気候変動問題に対する考え（年齢別）

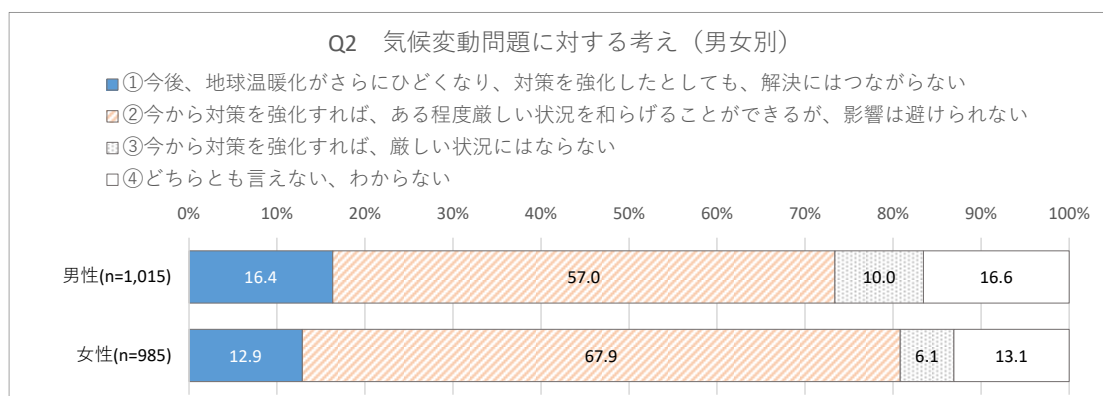


図 3-2-4 気候変動問題に対する考え（男女別）

(3) 身近な地域での気候変化の実感

身近な地域での気候変化（10～20 年ぐらい前との比較）について、「①暑い日や暑い夜が増えている」（69.6%）、「②猛暑の続く期間が長くなっている」（57.0%）と回答した人の比率が高く、暑さを感じている人が多かった。

一方、「⑤短時間に降る雨の量が増えている」（44.3%）、「⑥短時間の強い雨の回数が増えている」（40.8%）、「⑦台風の勢力が強くなっている」（41.8%）と感じている人は、約4割であった。

【地域別】区部（沿岸部）・島しょ部では、台風の勢力が強くなっていると感じる人が多い。

【年齢別】年齢が高いほど、暑さや雨、台風の強さが増したことを感じている。

【男女別】女性の方が、暑さや雨、台風の強さが増したことを感じている。

Q 3 あなたの身近な地域（お住まいの市区町村の範囲内）では、10～20 年ぐらい前に比べて、ここ数年間の気候が変化したと思いますか。
（あてはまるものを全て選択）

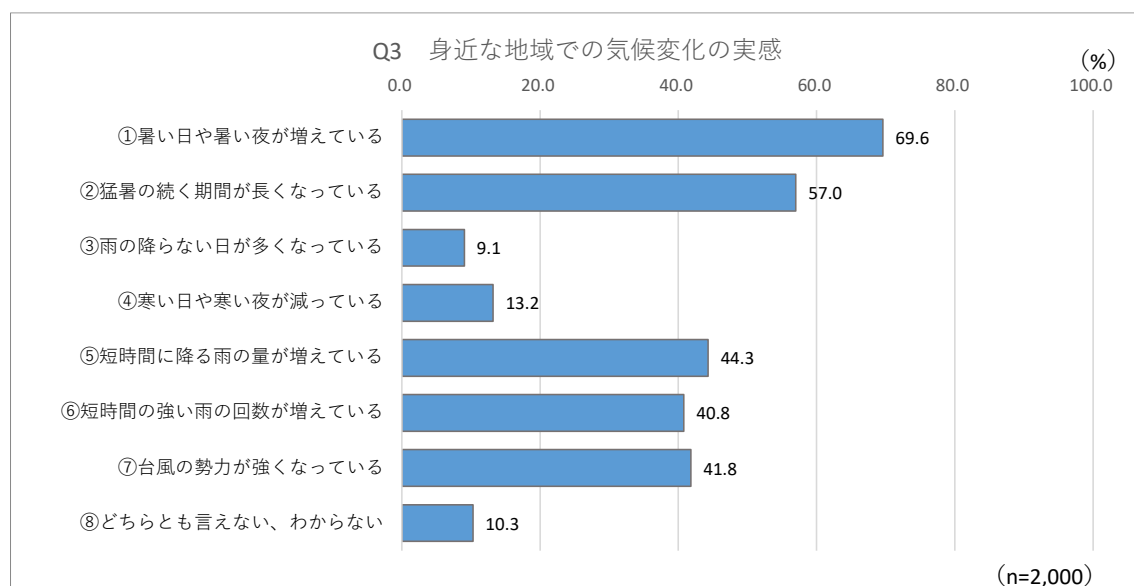


図 3-3-1 身近な地域での気候変化の実感（全体）

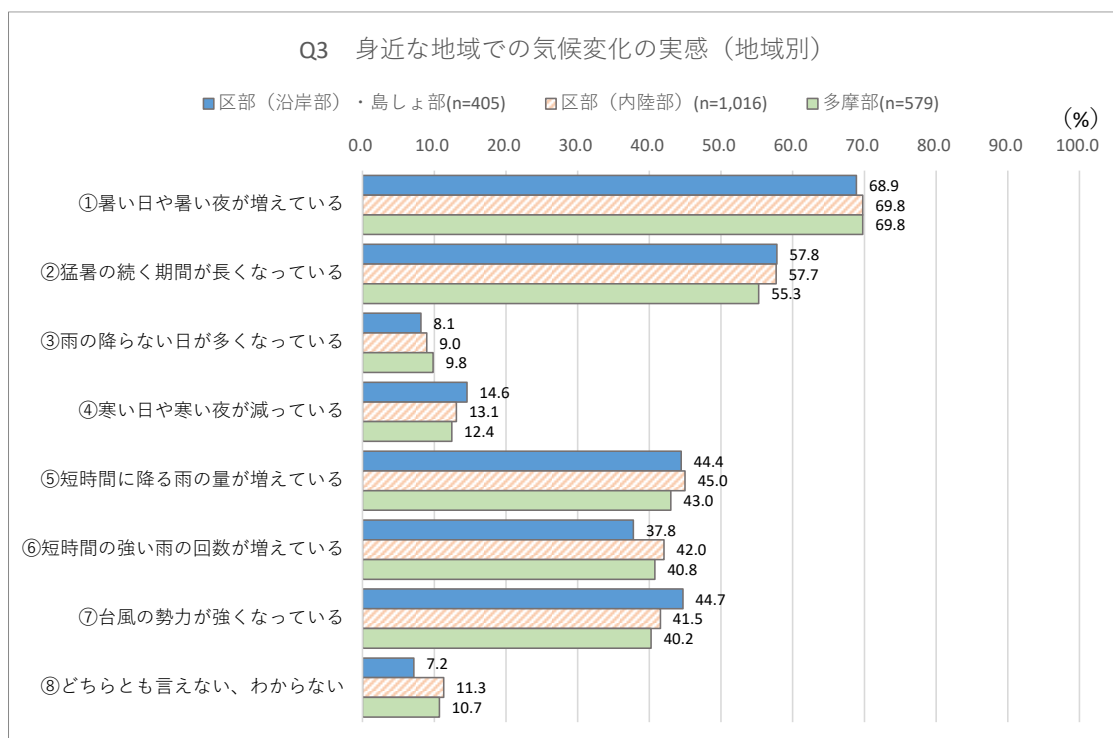


図 3-3-2 身近な地域での気候変化の実感（地域別）

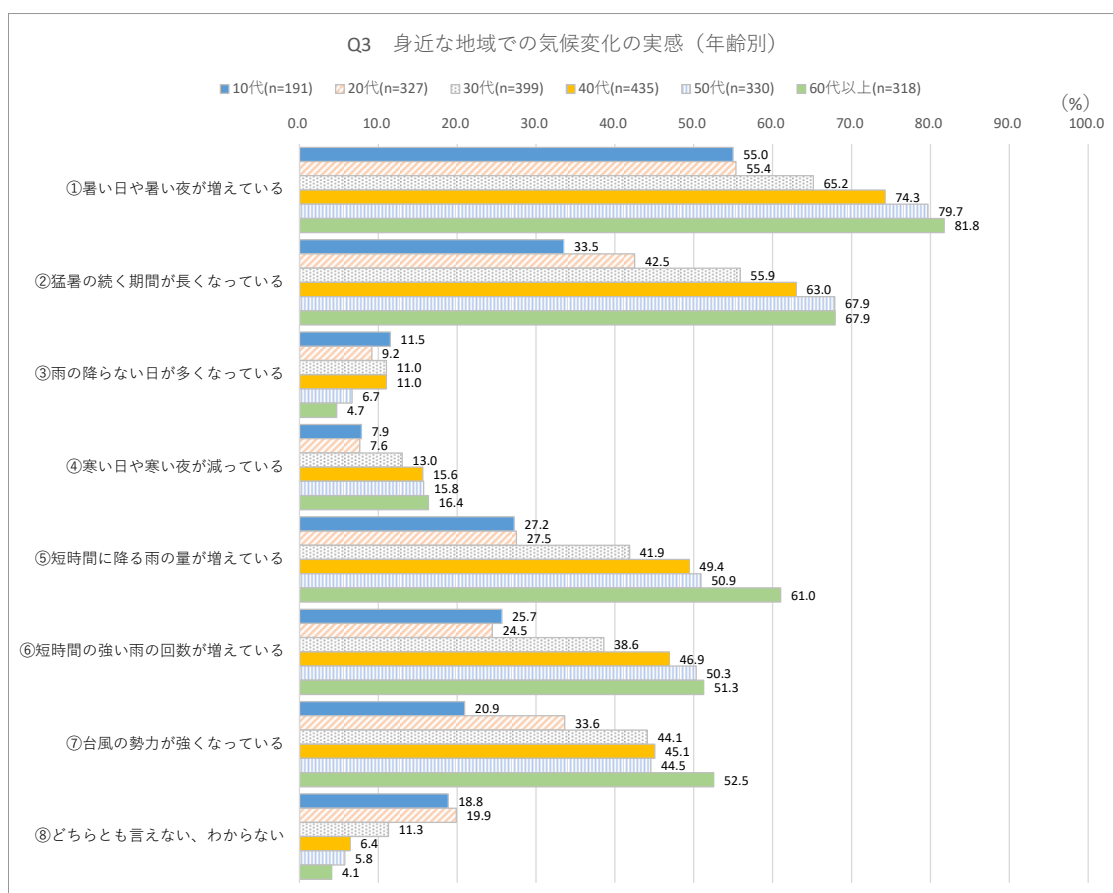


図 3-3-3 身近な地域での気候変化の実感（年齢別）

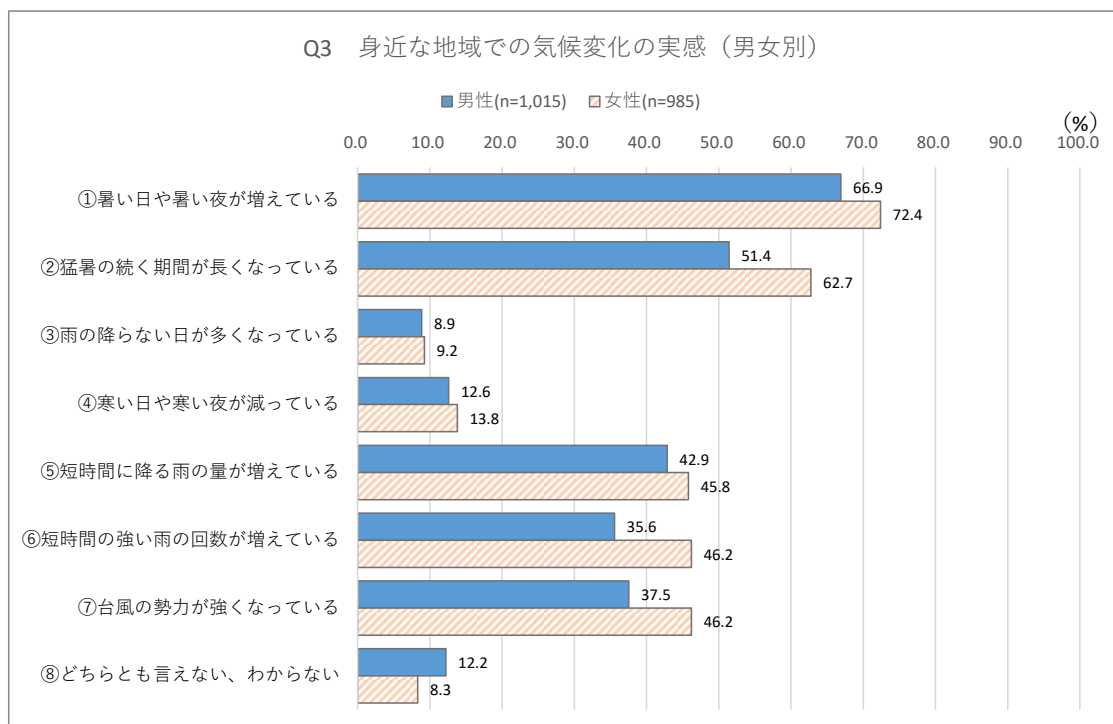


図 3-3-4 身近な地域での気候変化の実感（男女別）

(4) 身近な地域での将来の気候変化の予想

身近な地域での将来（およそ 50 年後）の気候の変化について、「①暑い日や暑い夜がさらに増える」（65.2%）や「②猛暑の続く期間がさらに長くなる」（57.8%）と回答した人の比率が高く、暑さが酷くなると予想する人が多い。

一方、「⑤短時間に降る雨の量がさらに増える」（41.8%）や「⑥短時間の強い雨の回数がさらに増える」（41.3%）、「⑦台風の勢力がさらに強くなる」（45.3%）と予想をしている人は、4 割を超える。

【地域別】区部（沿岸部）・島しょ部では、台風の勢力がさらに強くなると予想している人が多い。

【年齢別】年齢が高いほど、暑さや雨、台風の強さが増すと予想している人が多い。

【男女別】女性の方が、暑さや雨、台風の強さが増すと予想している人が多い。

**Q 4 あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）、次のような気候の変化が生じると
思いますか。
（あてはまるものを全て選択）**

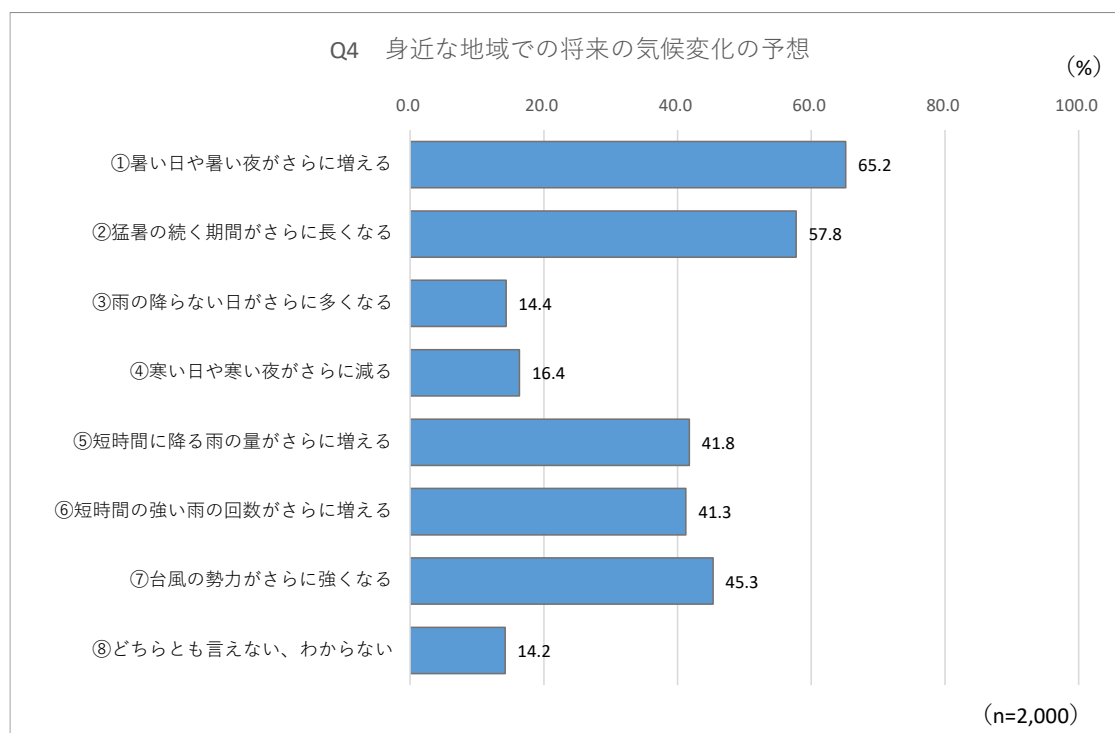


図 3-4-1 身近な地域での将来の気候変化の予想（全体）

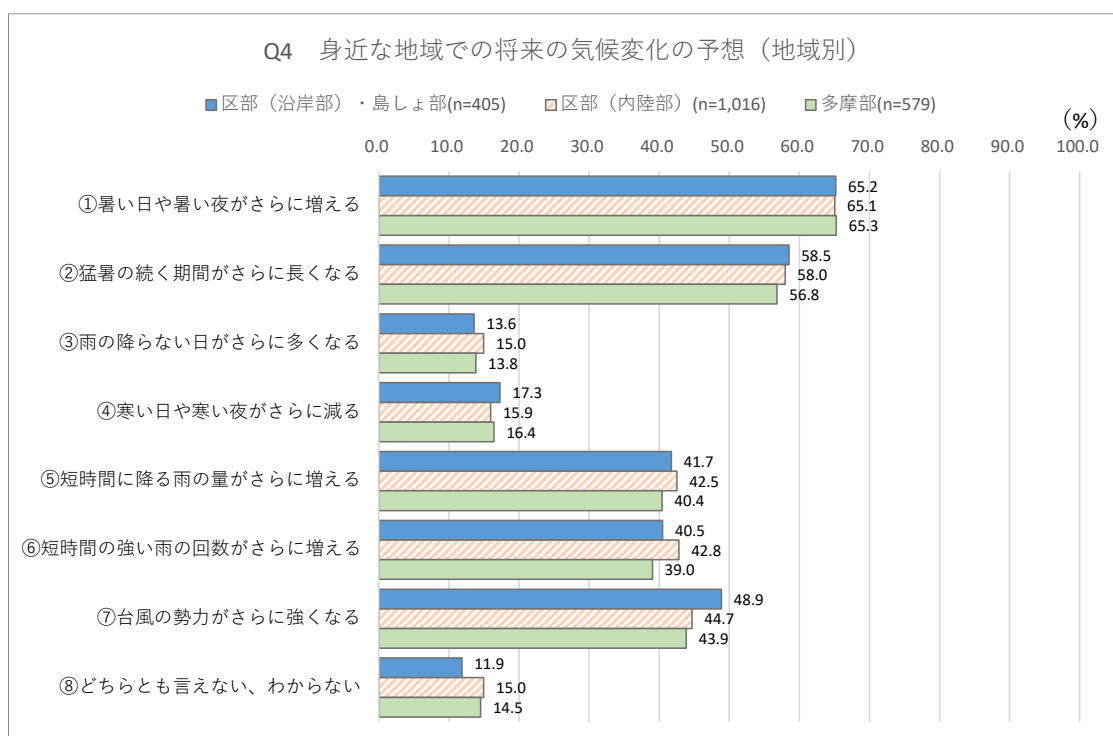


図 3-4-2 身近な地域での将来の気候変化の予想（地域別）

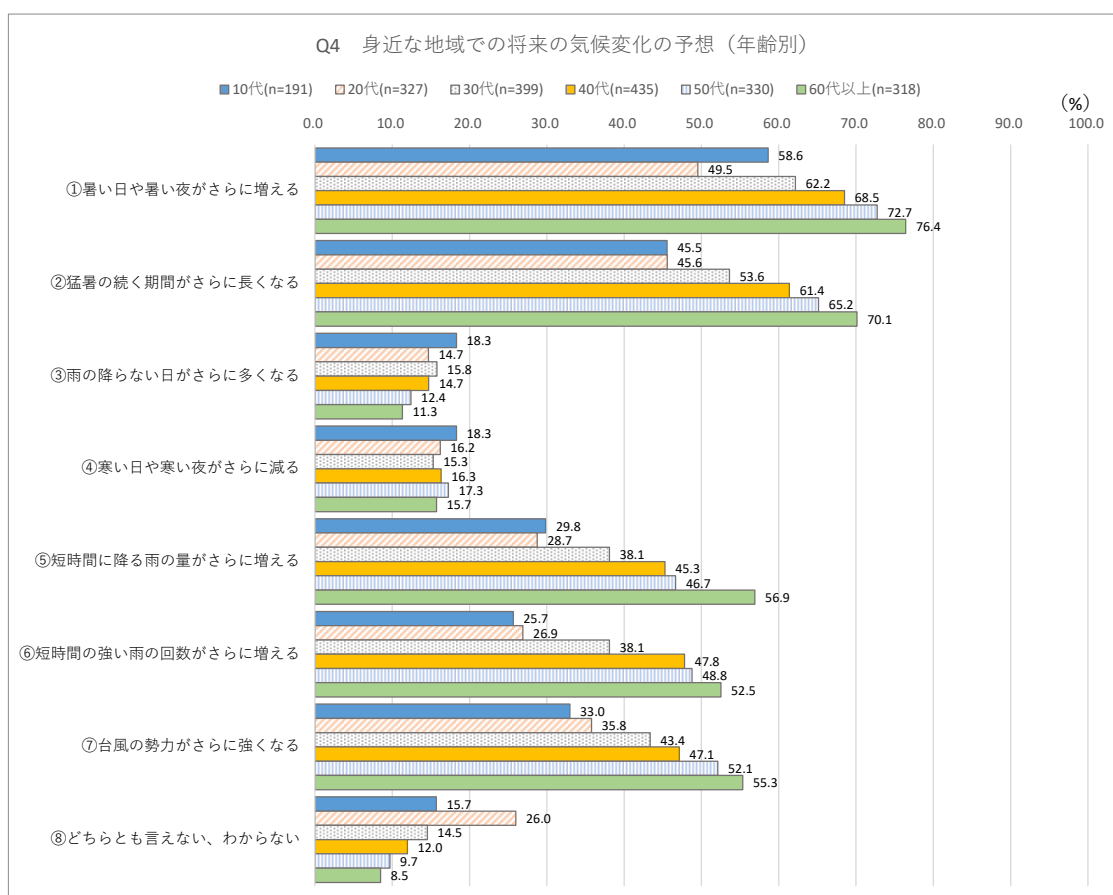


図 3-4-3 身近な地域での将来の気候変化の予想（年齢別）

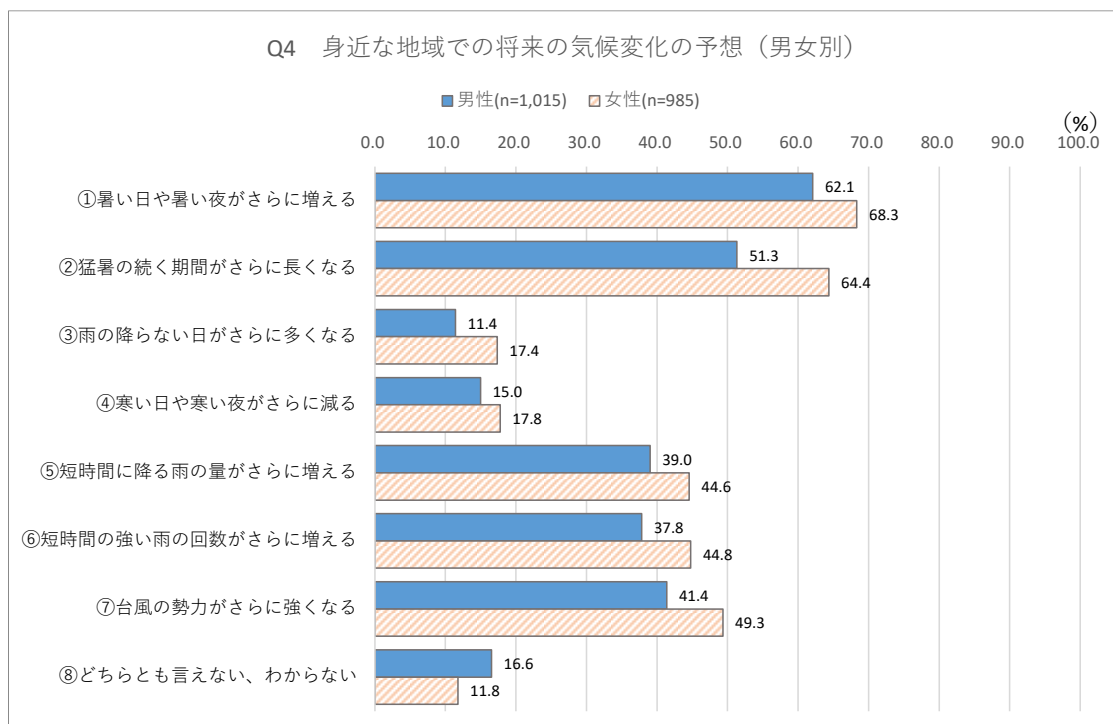


図 3-4-4 身近な地域での将来の気候変化の予想（男女別）

(5) 気候変動影響に対する不安感

各分野の気候変動影響に対し「かなり不安である」、「少し不安である」と回答した人の比率は、高潮・高波（68.9%）や感染症増加（69.4%）を除く各分野で7割を超えた。

「かなり不安」と感じている人は、「⑤気温上昇による熱中症の増加」（36.3%）が最も多く、「④豪雨や洪水による停電・交通麻痺などの被害の発生」（32.4%）、「⑦農作物の収穫量・品質の低下」（32.4%）、「①豪雨や台風の強大化などによる浸水被害・土砂災害の増加」（32.0%）と続いた。

【地域別】区部（沿岸部）・島しょ部では、「①豪雨や台風の強大化による浸水被害・土砂災害の増加」、「②海面水位の上昇や台風の強大化による高潮・高波による被害の増加」に対し不安を感じる人が多い。多摩部では、「⑩気候の変化による自然の変化」に対し不安を感じる人が多い。

【年齢別】50代と60代は、多くの項目について気候変動の影響に対し不安を感じている。感染症や水不足・渇水の増加については、10代の回答率が高い。

【男女別】女性の方が、各分野の影響に対し不安を感じる人が多い。

Q5 すでに地球温暖化に伴う気候の変化が観測され、将来にわたって私たちの生活に影響が及ぶことが予測されています。

あなたは、次のような影響に対して不安を感じますか。

（それぞれ、あてはまるものを1つ選択）

1) 全体

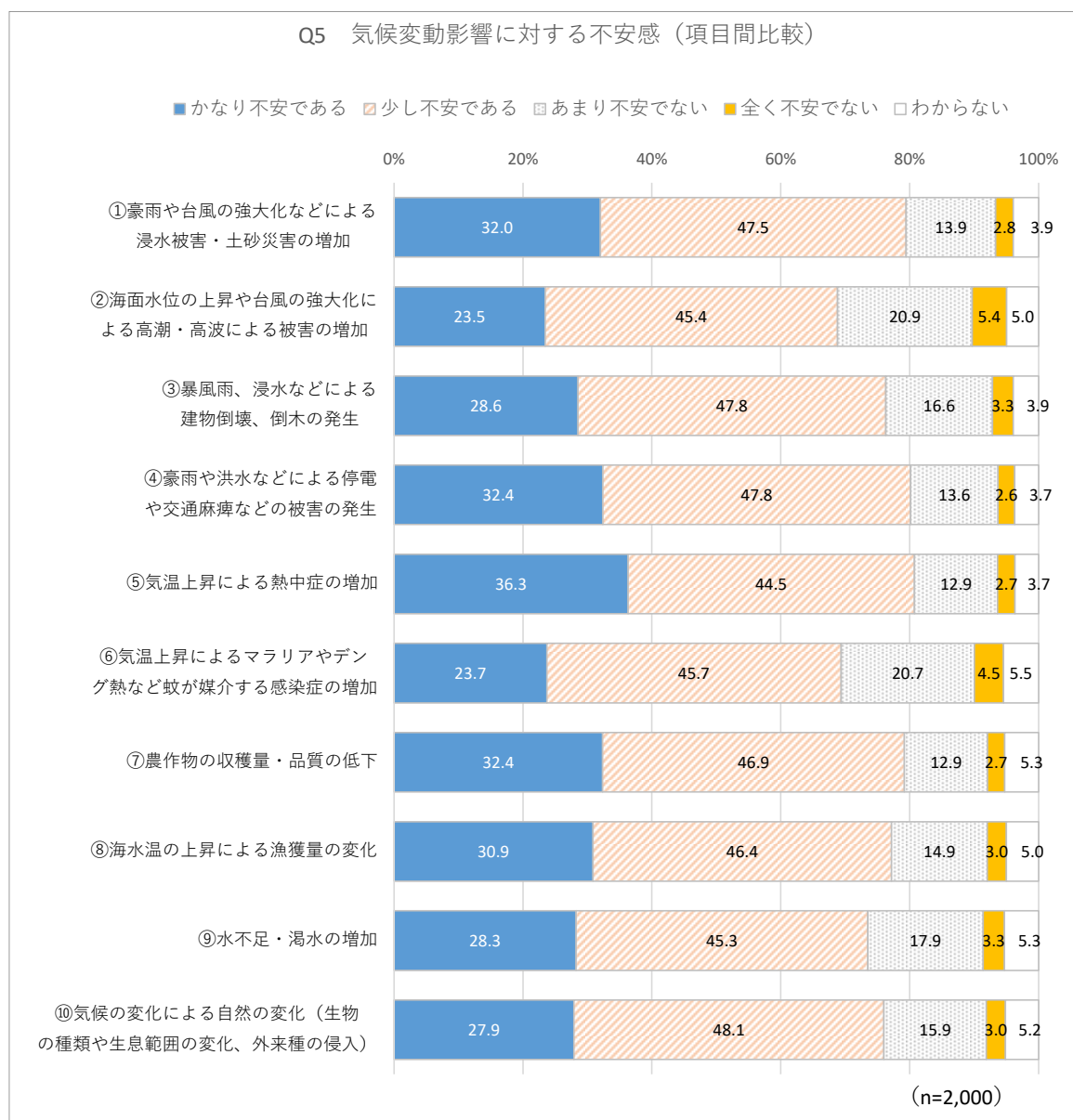


図 3-5-1 気候変動影響に対する不安感（項目間比較）

2) 「かなり不安」と回答した人の比率

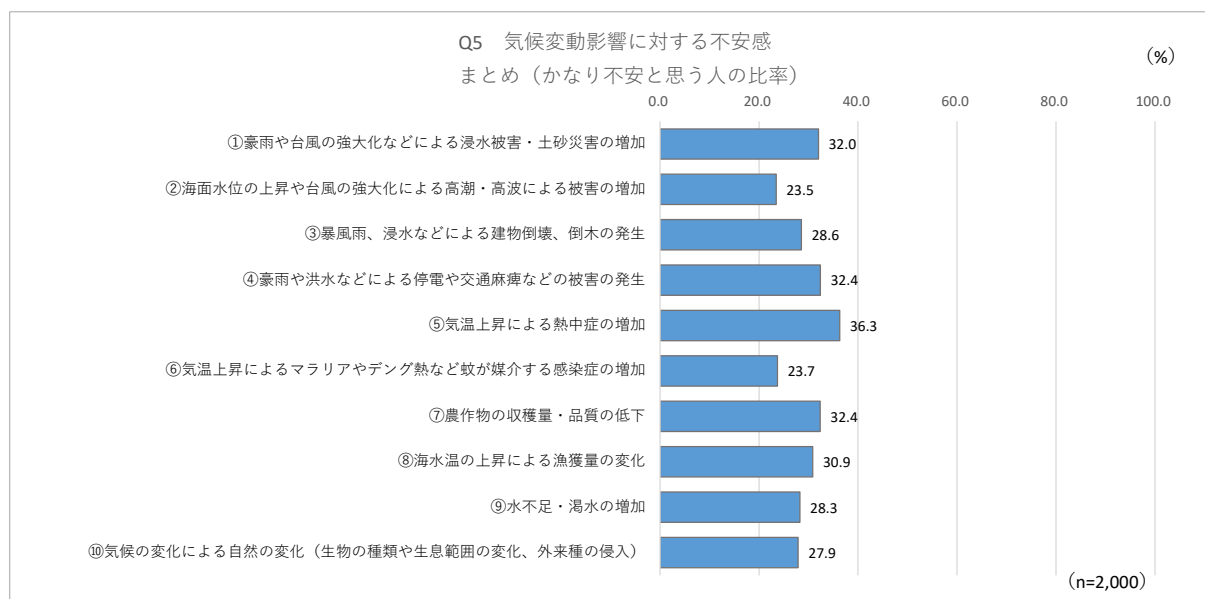


図 3-5-2 気候変動影響に対する不安感（かなり不安と思う人の比率：全体）

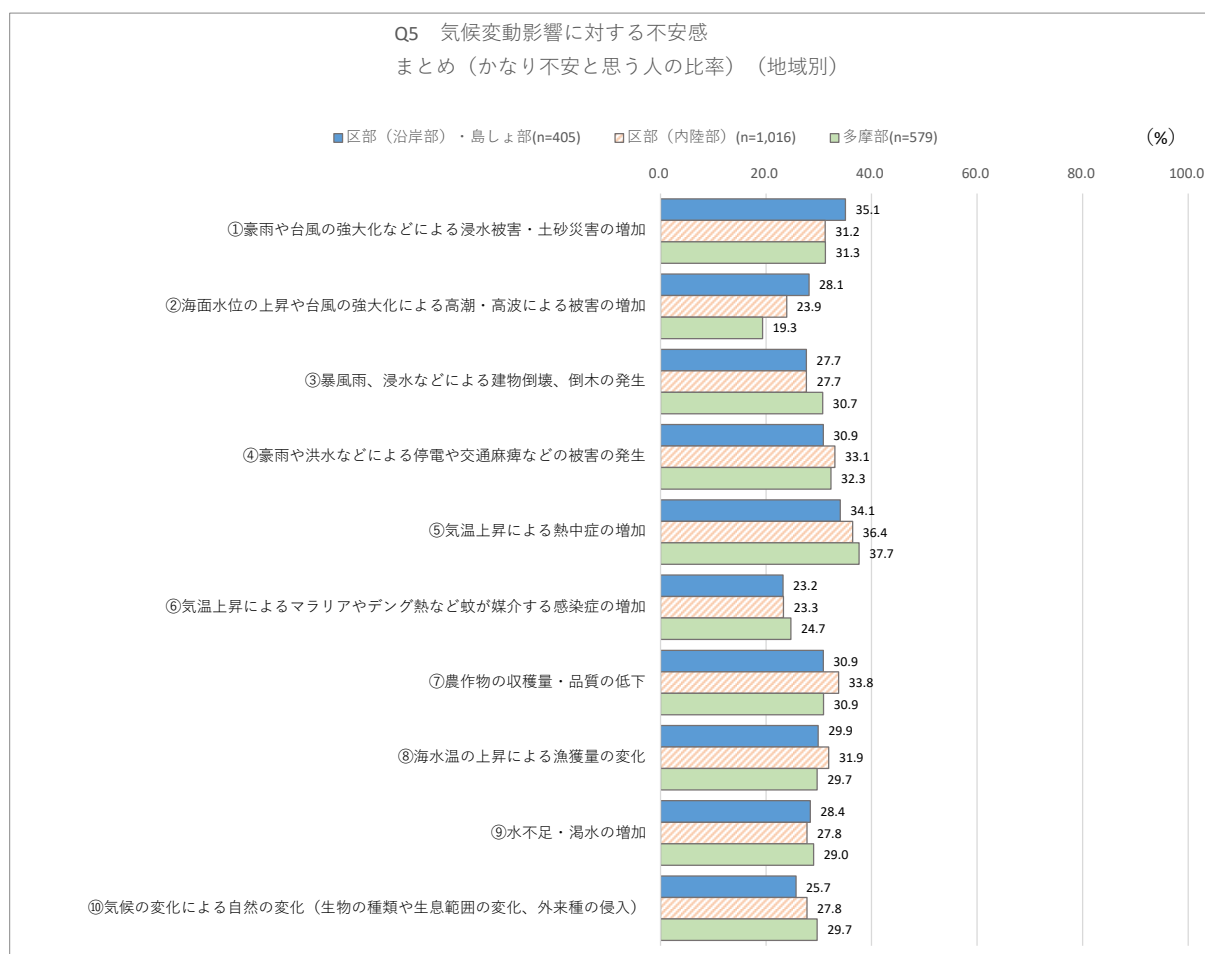


図 3-5-3 気候変動影響に対する不安感（かなり不安と思う人の比率：地域別）

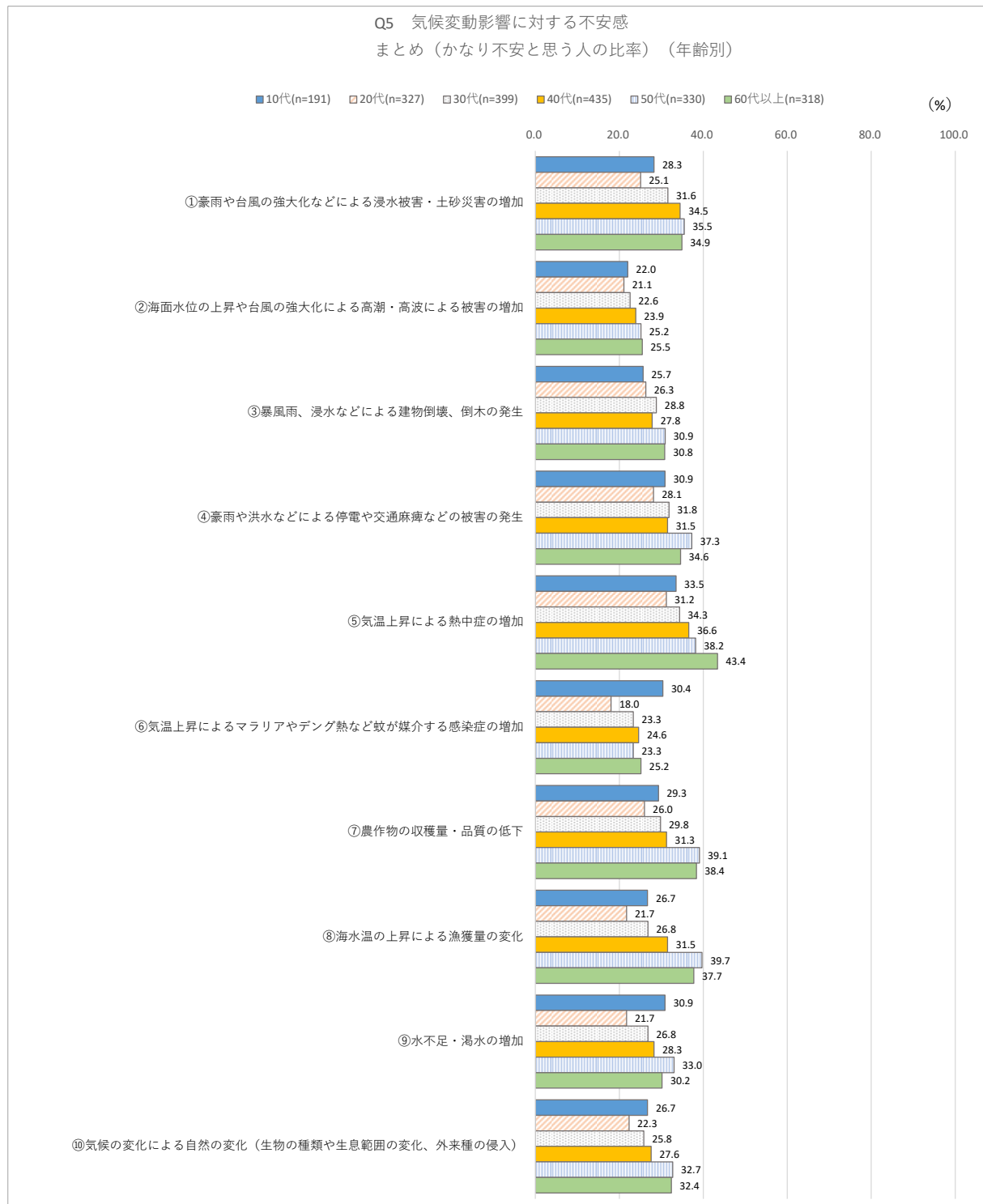


図 3-5-4 気候変動影響に対する不安感（かなり不安と思う人の比率：年齢別）

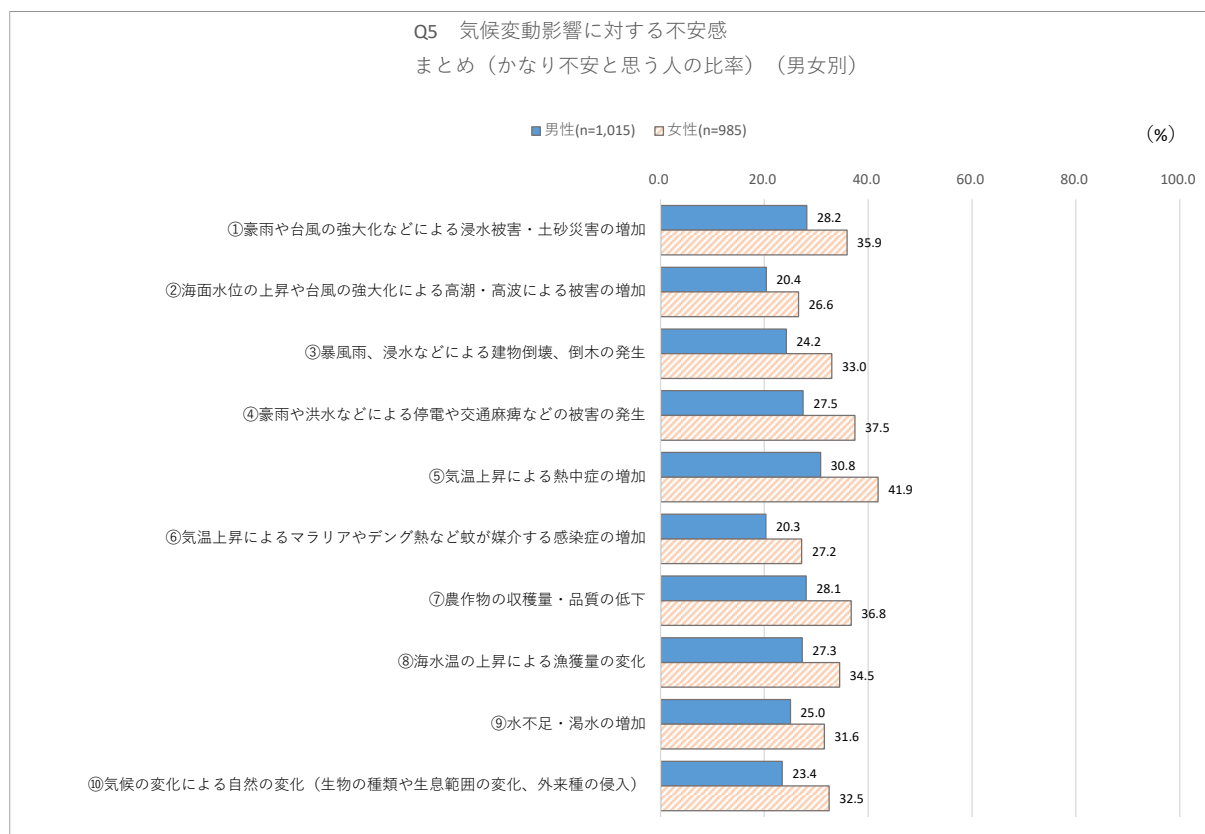


図 3-5-5 気候変動影響に対する不安感（かなり不安と思う人の比率：男女別）

(6) 身近な地域で優先的に進めていくべき適応策の分野

身近な地域で気候変動に対処し被害を少なくする対策（適応策）について優先的に進めていくべき分野は、「①自然災害（浸水被害、土砂災害、高潮・高波、沿岸浸食）」（78.4%）が最も回答率が高く、「②健康（熱中症、感染症）」（56.7%）、「⑤自然環境（自然生態系・生物多様性の保全）」（43.2%）が続いている。

【地域別】区部（沿岸部）・島しょ部では、自然災害の分野を挙げた人が他の地域より多い。

多摩部では、健康分野を挙げた人が他の地域より多い。区部（内陸部）では、都市生活分野を挙げた人が他の地域より多い。

【年齢別】自然災害分野を挙げた人は、60代以上や20代が比較的多い。健康分野を挙げた人は、50代以上が比較的少ない。10代は、健康分野や自然環境分野で、他の年齢層よりも比較的多い。

【男女別】自然災害分野や健康分野では、女性の回答率が高い。

「⑧その他」の分野としては、「ごみ問題」「人口抑制」が挙げられた。

Q 6 あなたの身近な地域で、気候変動に対処し被害を少なくするために、優先的に進めていくべき対策はどの分野だと考えますか。
（特に重要と思うものを3つ選択）

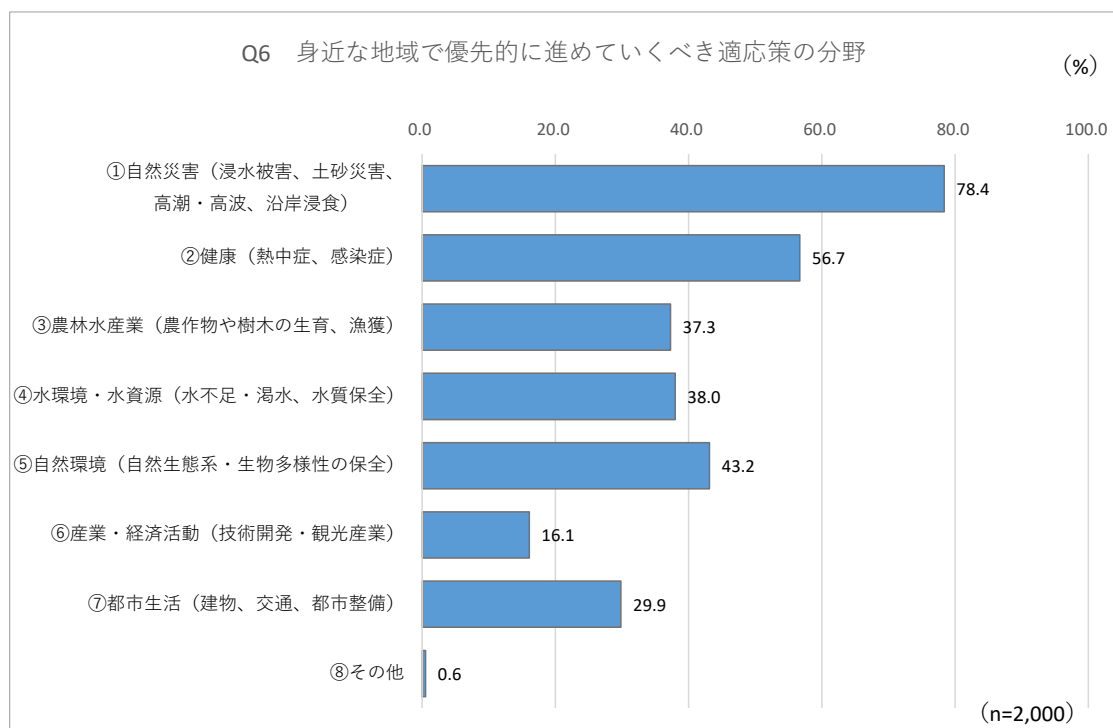


図 3-6-1 身近な地域で優先的に進めていくべき適応策の分野（全体）

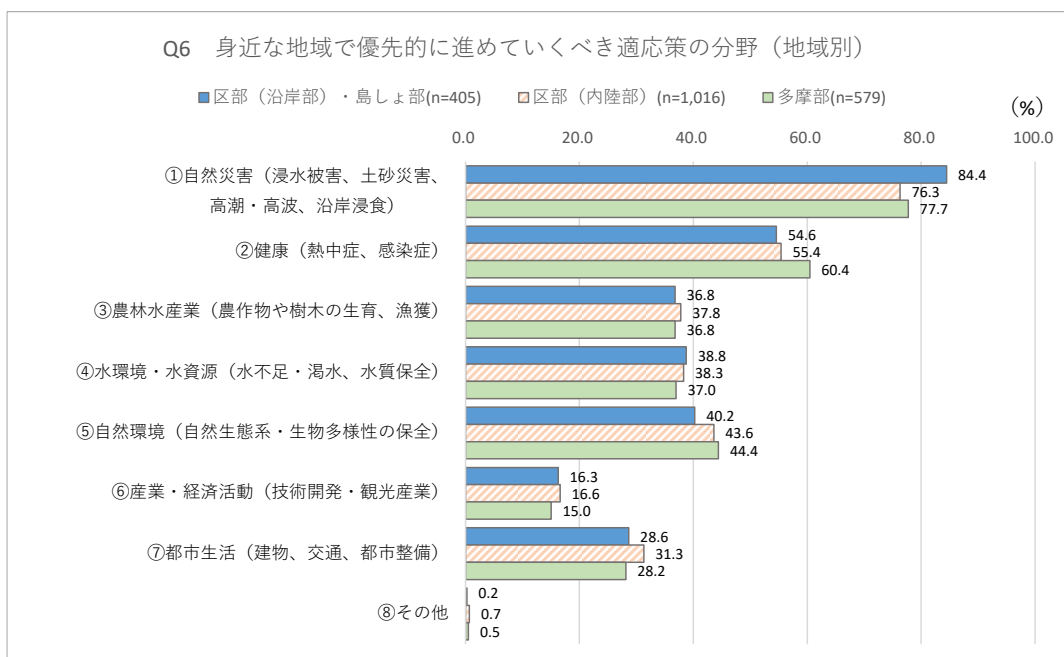


図 3-6-2 身近な地域で優先的に進めていくべき適応策の分野（地域別）

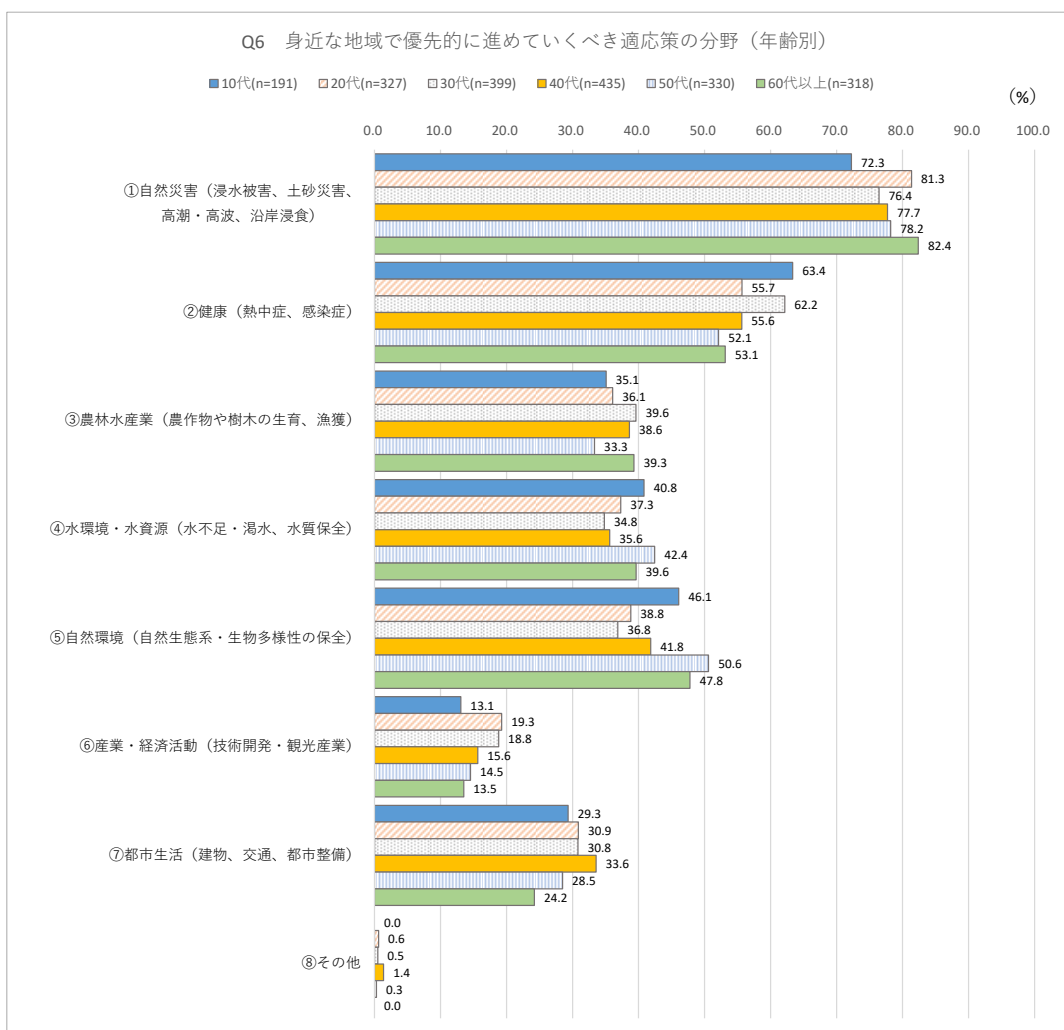


図 3-6-3 身近な地域で優先的に進めていくべき適応策の分野（年齢別）

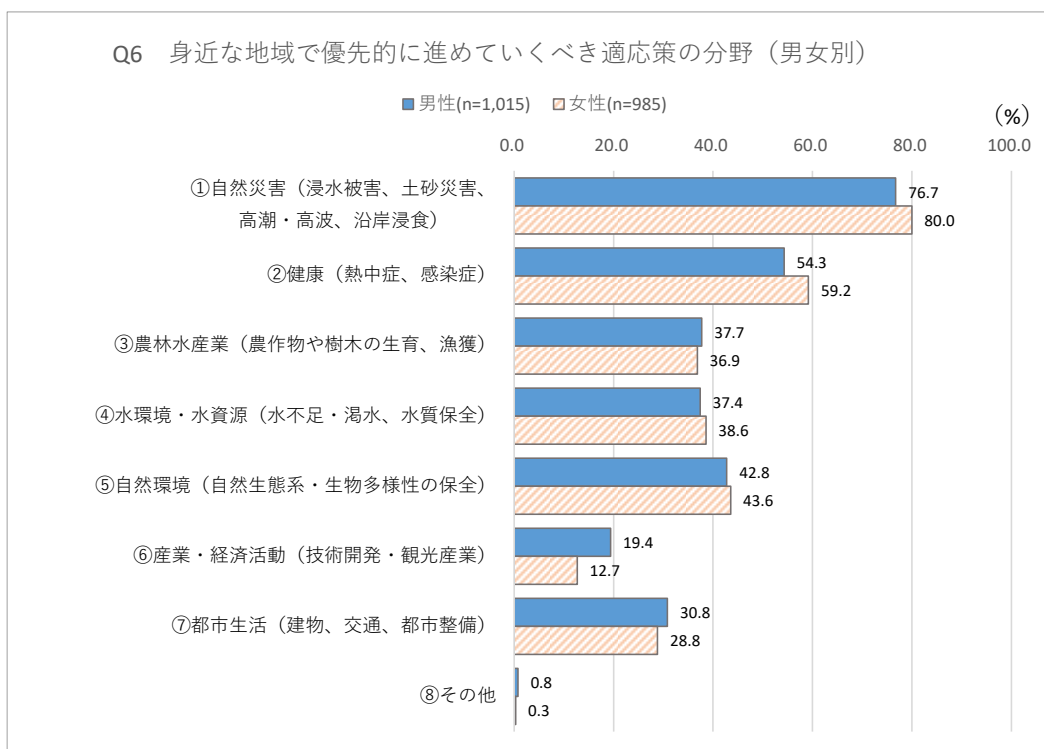


図 3-6-4 身近な地域で優先的に進めていくべき適応策の分野（男女別）

(7) 啓発パンフレットを見た感想

啓発パンフレット「気候変動に備えよう」を見た感想は、「③役に立つ情報」(51.8%)が最も多く、「④危機感を訴える情報」(41.9%)、「①自分に関係がある」(34.8%)が続いた。一方、「⑤内容について、さらに知りたいと思うことがあった」人は19.1%、「⑥内容が不明で、わかりにくいと思った」人は9.5%であった。

【地域別】啓発パンフレットを見た感想について、地域間で大きな差はない。

【年齢別】①③④は、年齢が高い人の回答率が高い。「⑤内容について、さらに知りたいと思うことがあった」人は、60代以上の回答率が比較的高い。「⑥内容が不明で、わかりにくいと思った」人は、20代の回答率が比較的高い。

【男女別】①③④は、女性の回答率が高い。

「⑦その他」の感想としては、全体的な印象やデザイン、掲載内容、気候変動に対する考えについて自由回答があった。パンフレットに対し、簡潔でわかりやすい記述、色彩やデザインによる強調やアピールなども求めていることがうかがわれる。

Q7 パンフレット「気候変動に備えよう」(下図)をご覧ください。感想をお教えてください。(あてはまるものを全て選択)

気候変動に備えよう

地球温暖化により、世界中で強い台風やハリケーン、集中豪雨、干ばつや熱波などの異常気象・気象災害が頻発するようになっています。このような影響は、今後さらに深刻になっていくと考えられており、「気候危機」とも呼ばれるほどです。

一人ひとりが、気候変動の影響に備えておくことが重要です。

地球温暖化が進行している

①世界の平均気温は、産業革命以降、100年にわたるペースで上昇しています。
②世界の気温は、今後さらに急激なペースで上昇する見込みです。対照的に2030年以降に予想される気温の上昇は、21世紀後半に2.0℃以上上昇する見込みです。

気候変動の2つの対策「緩和」と「適応」

①気候変動による影響を抑えるためには、温室効果ガス削減と適応策の両方による対応が必要です。これを「緩和」と呼びます。
②しかし、既に発生している気候変動の影響は避けられません。また、「緩和」の効果が十分でなくても、すでに発生している気候変動の影響に対して被害を少なくする「適応」を講じていくことが重要です。

気候変動の影響

気候変動による影響は、気候変動の影響を軽減するための「緩和」と呼ばれる対策と、気候変動の影響を軽減するための「適応」と呼ばれる対策に分かれます。

気候変動の影響

気候変動の影響は、気候変動の影響を軽減するための「緩和」と呼ばれる対策と、気候変動の影響を軽減するための「適応」と呼ばれる対策に分かれます。

一人ひとりができる適応策

気候変動の影響に対して、被害を少なくするための「適応策」を紹介します。

①熱中症を予防しよう！
・エアコンの適切な使用
・外出する際に、帽子や扇子、扇子
・水分をこまめに摂取する
・直射日光を避ける
・暑い時間帯は、涼しい場所に行く

②気候変動に備えよう！
・気候変動の影響を軽減するための「緩和」と呼ばれる対策と、気候変動の影響を軽減するための「適応」と呼ばれる対策に分かれます。

③感染症を予防しよう！
・気候変動の影響を軽減するための「緩和」と呼ばれる対策と、気候変動の影響を軽減するための「適応」と呼ばれる対策に分かれます。

④水の利用を工夫しよう！
・水資源の確保
・水の節約
・水の再利用

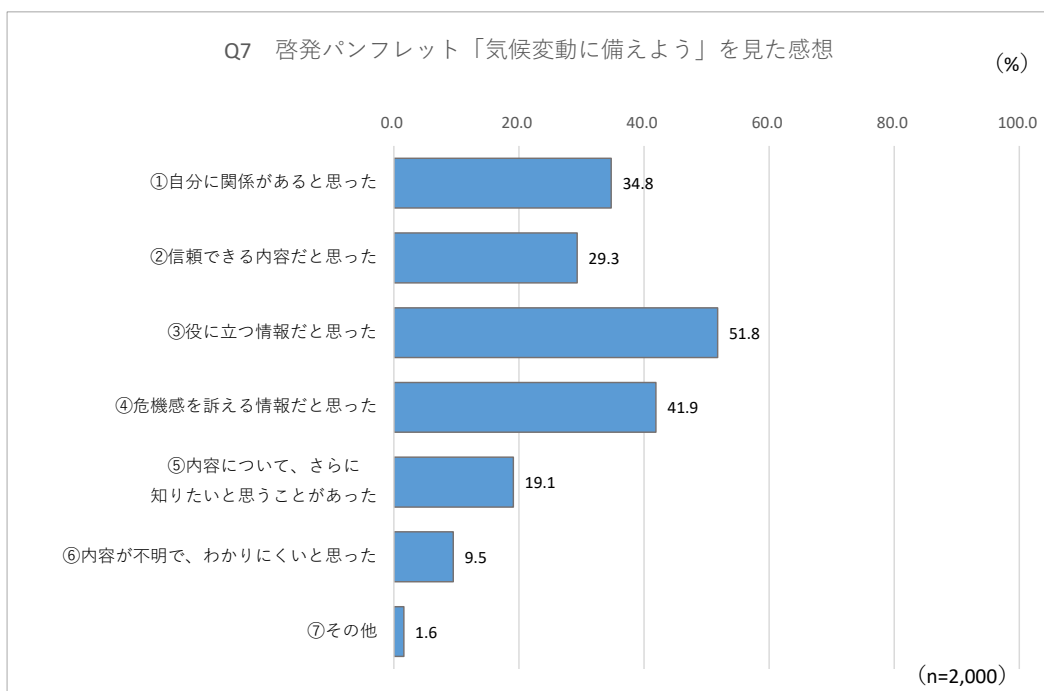


図 3-7-1 啓発パンフレットを見た感想（全体）

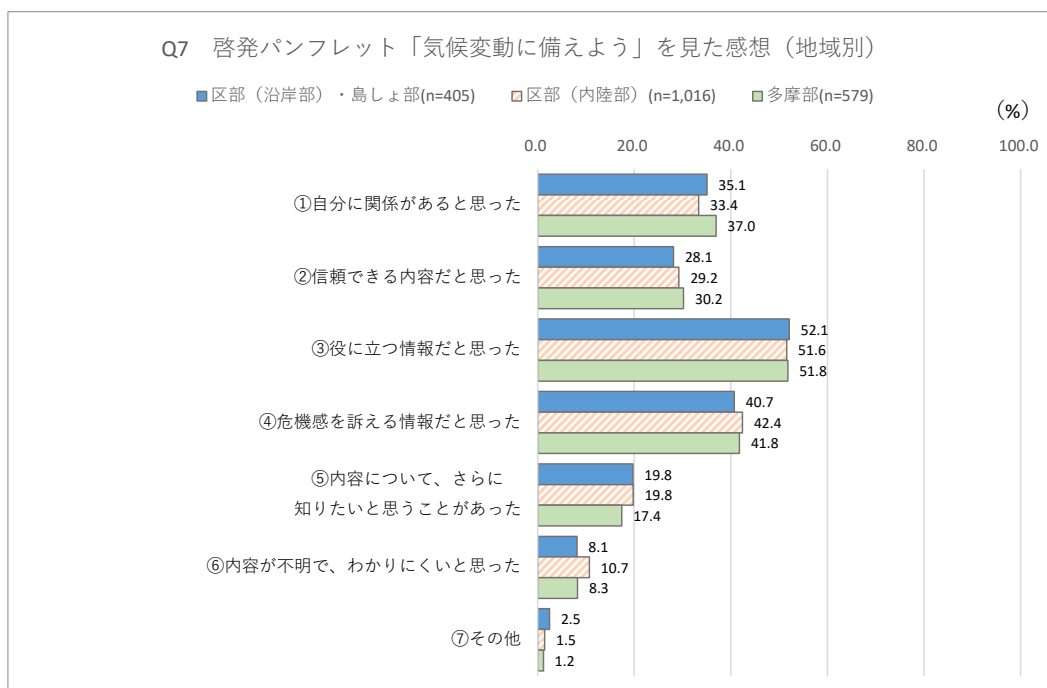


図 3-7-2 啓発パンフレットを見た感想（地域別）

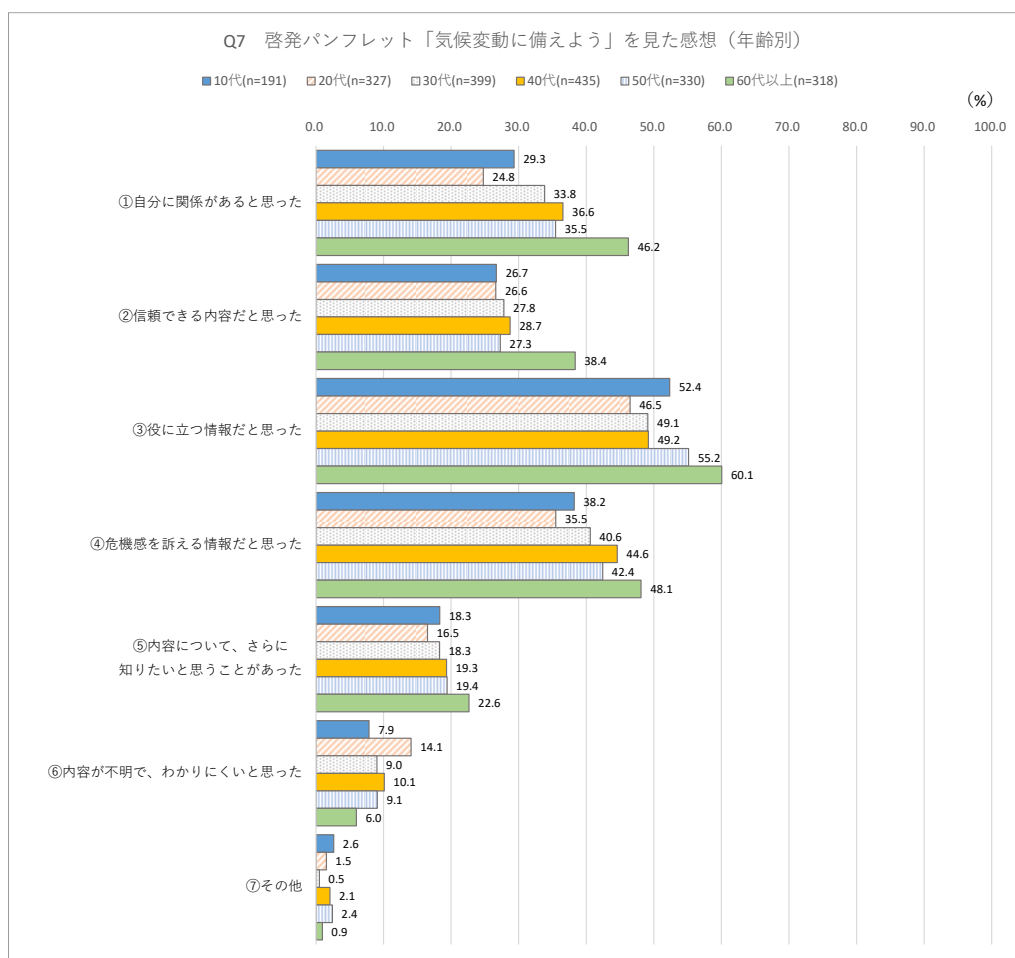


図 3-7-3 啓発パンフレットを見た感想（年齢別）

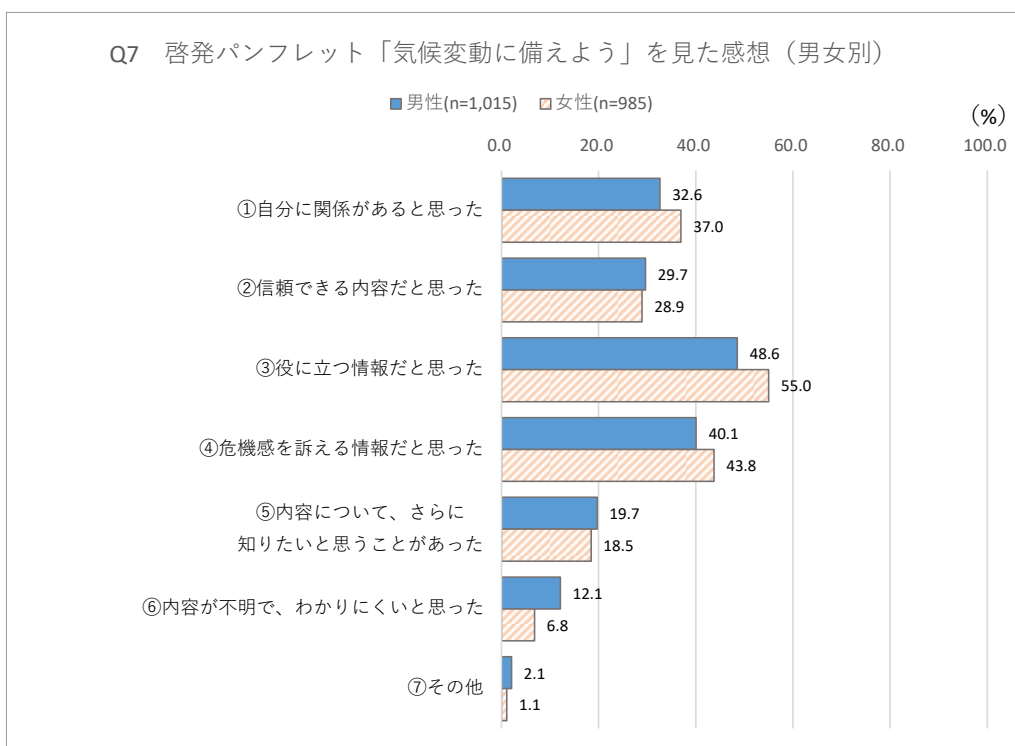


図 3-7-4 啓発パンフレットを見た感想（男女別）

表 3-7-1 感想のうち「⑦その他」の主要な自由回答（全体の 1.6%）

内容	自由回答
全体的な印象	・ 表面的 ・ 硬くて読みづらい ・ ありきたり ・ 嘘くさい ・ 興味を持ってない
デザイン	・ 読む部分が多い。 ・ 色が多過ぎて大事なポイントが伝わりにくい。 ・ 内容は良いが、どこを見れば良いか分かりにくく、読みづらい。 ・ 見辛い。パンチがなく読ませる気が無さそうに感じる。内容は良いだけにもったいない。 ・ 熱量は伝わるが文字数が多く、全てをきちんと読むにはそれなりの時間と余裕が必要であると思った。 ・ 大切な内容だが説明が多すぎて読みたいと思わないかもしれない。 ・ 1 ページで十分まとめられると思う。
掲載内容	・ 熱中症は身近とは言え気象変動と直結させるのは疑問に思った。それ以上に気象変動に合わせて生活様式を変えていく方が重要だと思う。 ・ そもそも気候変動が、地球温暖化が要因であることに疑問視している。 ・ 個人でできることには大して影響力はなく、複数の国家規模で行動しなければ効果はないように思われる。 ・ 個人が取り組みやすい内容を載せていると思った。 ・ 聞き慣れている内容ばかりだと思った。 ・ 個々人ができる具体的な対策をもっともっと知りたい。
気候変動に対する考え	・ 地球温暖化による解決策や危機感を伝えないと、利己主義の考えだけでは改善しないと思う。 ・ 海水温上昇で水蒸気が増え、太陽活動の低下とともに氷河期に向かう。

(8) 啓発パンフレットを見たうえでの気候変動適応に対する考え方

啓発パンフレットを見たうえでの気候変動適応に対する考え方について、「とてもそう感じた」や「ややそう感じた」と肯定的に回答した人は、各項目とも約9割であった。

【地域別】気候変動適応に対する考え方は、地域間での大きな差はない。

【年齢別】各考え方とも、10代と年齢が高い人の回答率が高い。

【男女別】各考え方とも、女性の回答率が高い。

Q8 パンフレット「気候変動に備えよう」をご覧になったうえで、次の各項目に対しどのように考えますか。
(それぞれ、あてはまるものを1つ選択)

1) 全体

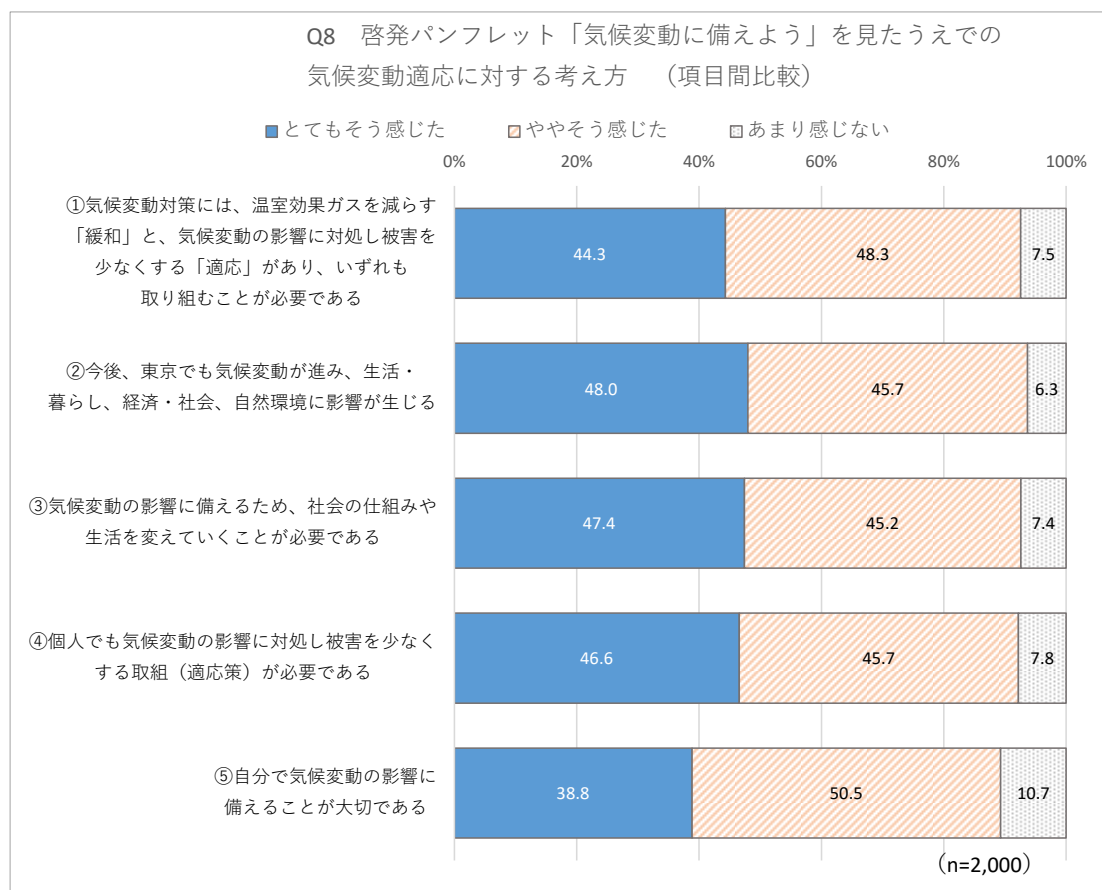


図 3-8-1 啓発パンフレットを見たうえでの気候変動適応に対する考え方 (全体)

2) 「とてもそう感じた」と回答した人の比率

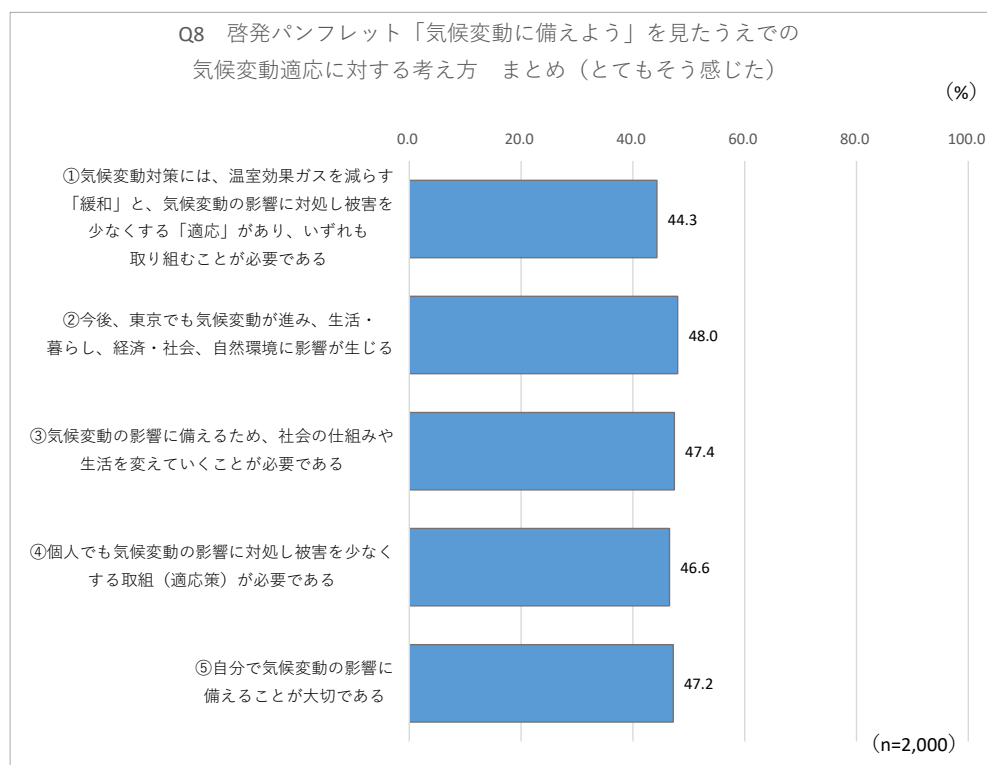


図 3-8-2 啓発パンフレットを見たうえでの適応に対する考え方
(とてもそう感じた人の比率：全体)

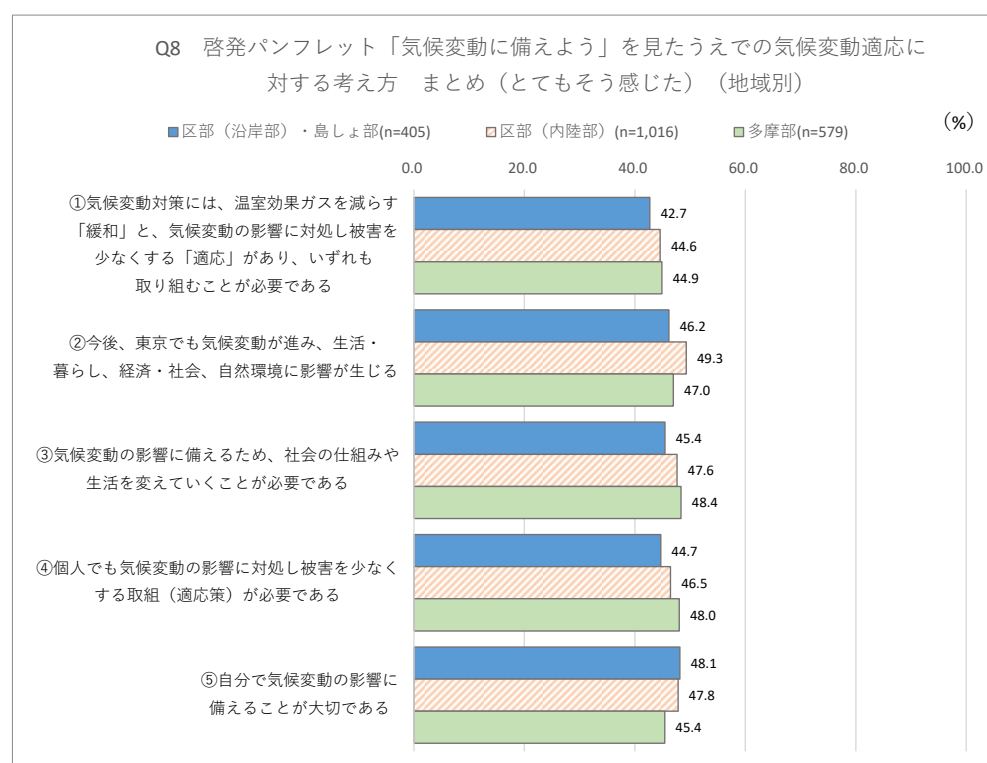


図 3-8-3 啓発パンフレットを見たうえでの適応に対する考え方
(とてもそう感じた人の比率：地域別)

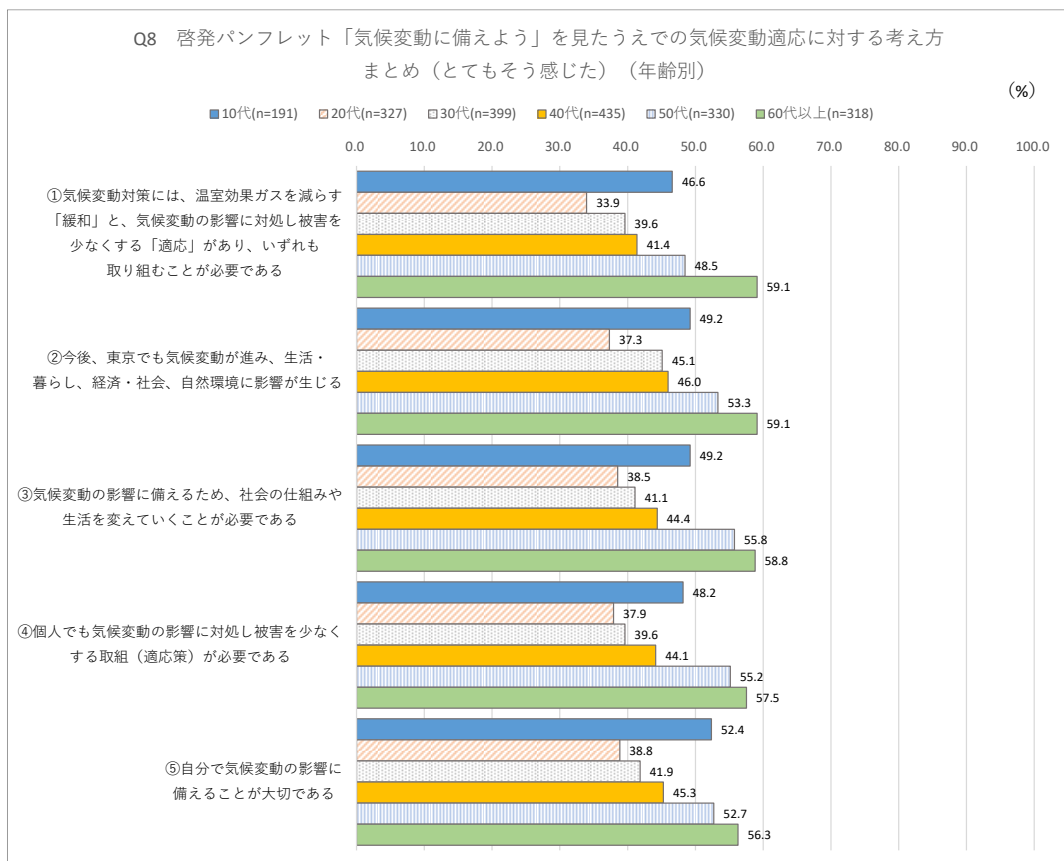


図 3-8-4 啓発パンフレットを見たうえでの適応に対する考え方
（とてもそう感じた人の比率：年齢別）

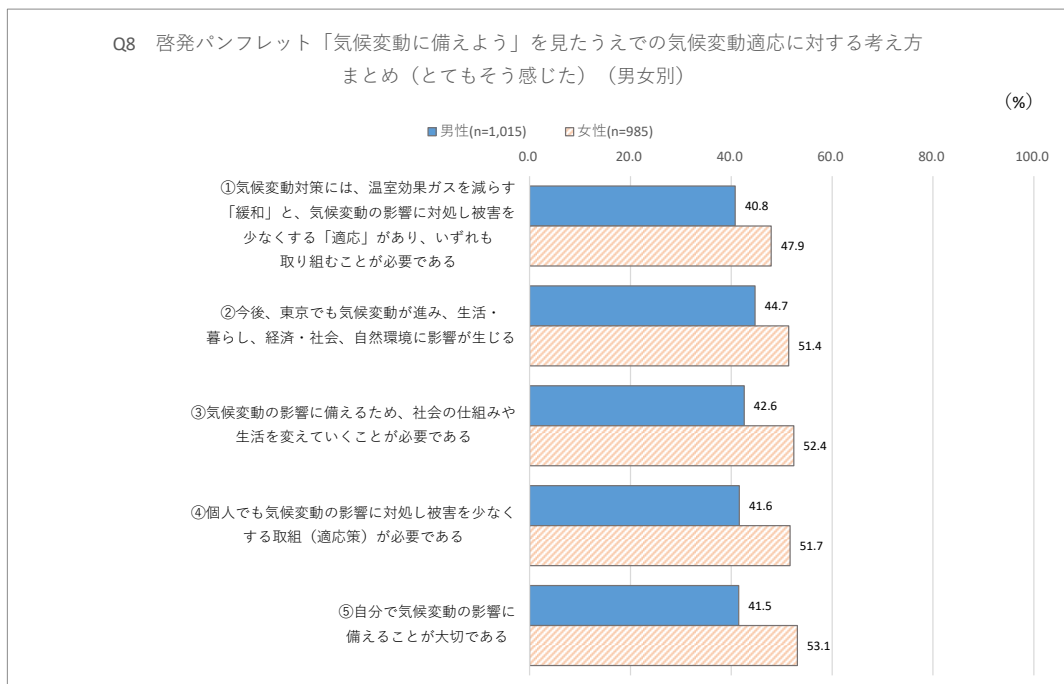


図 3-8-5 啓発パンフレットを見たうえでの適応に対する考え方
（とてもそう感じた人の比率：男女別）

(9) 個人でできる適応策の取組状況、今後の意向

個人でできる適応策の取組について、「すでに行っている」のは「①エアコンの適正な使用、こまめな水分・塩分の補給など熱中症予防行動」が最も多い。

今後の取組意向が高いのは、「⑥避難行動計画（マイタイムライン）の作成」（56.3%）が最も多く、「③避難場所・避難経路の確認」（53.6%）、「②熱中症警戒アラート、暑さ指数（WBGT）の確認」（52.0%）が続いた。

【地域別】今後の取組意向は、各取組とも地域間での大きな差はない。

【年齢別】今後の取組意向は、「⑤防災訓練への参加」以外の各取組で、概ね年齢の若い人の回答率が高い。

【男女別】今後の取組意向は、「①エアコンの適正な使用、こまめな水分・塩分の補給など熱中症予防行動」以外の各取組で、概ね女性の回答率が高い。

Q 9 あなたご自身は、気候変動の影響に対処し被害を少なくする取組（適応策）のうち、次の取組を行っていますか。あるいは今後、行いたいと思いますか。（それぞれ、あてはまるものを1つ選択）

1) 全体

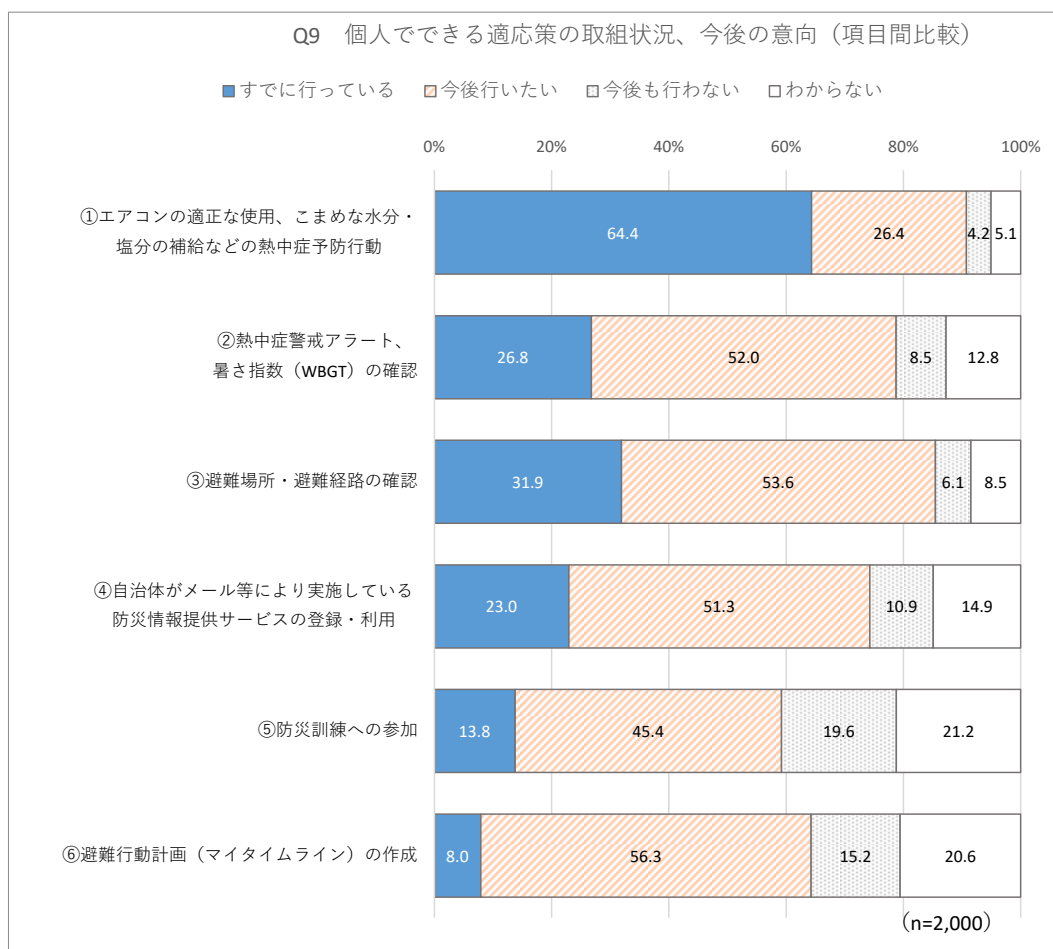


図 3-9-1 個人でできる適応策の取組状況、今後の意向（全体）

2) 「すでに行っている」と回答した人の比率

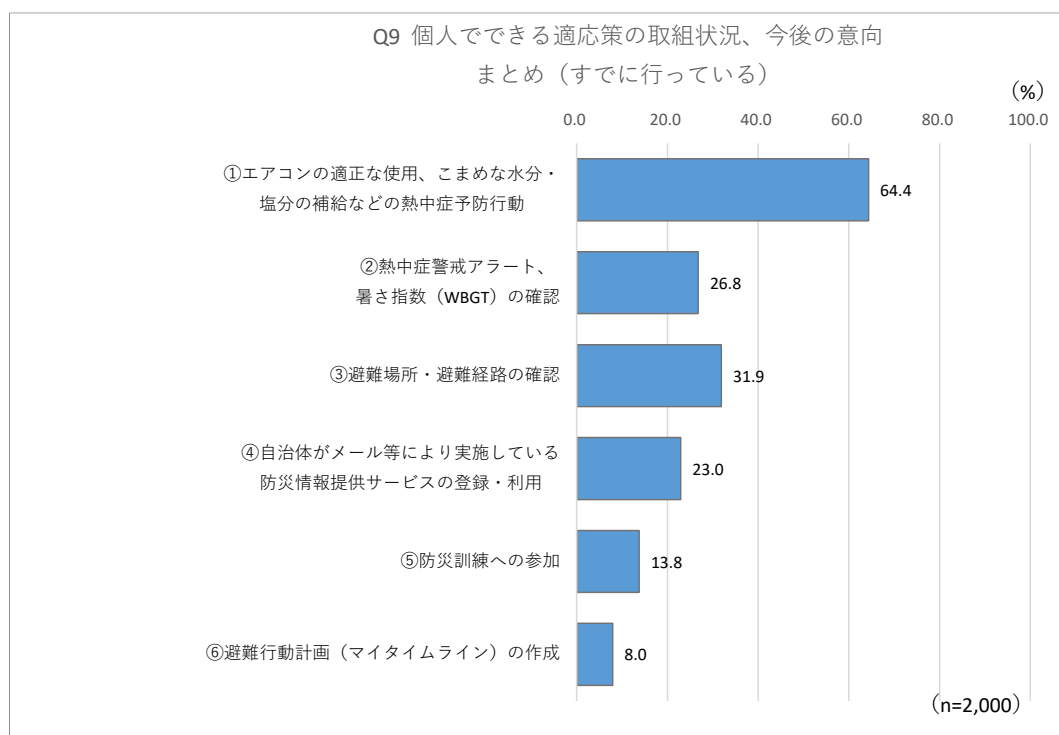


図 3-9-2 個人でできる適応策の取組状況（すでに行っている人の比率：全体）

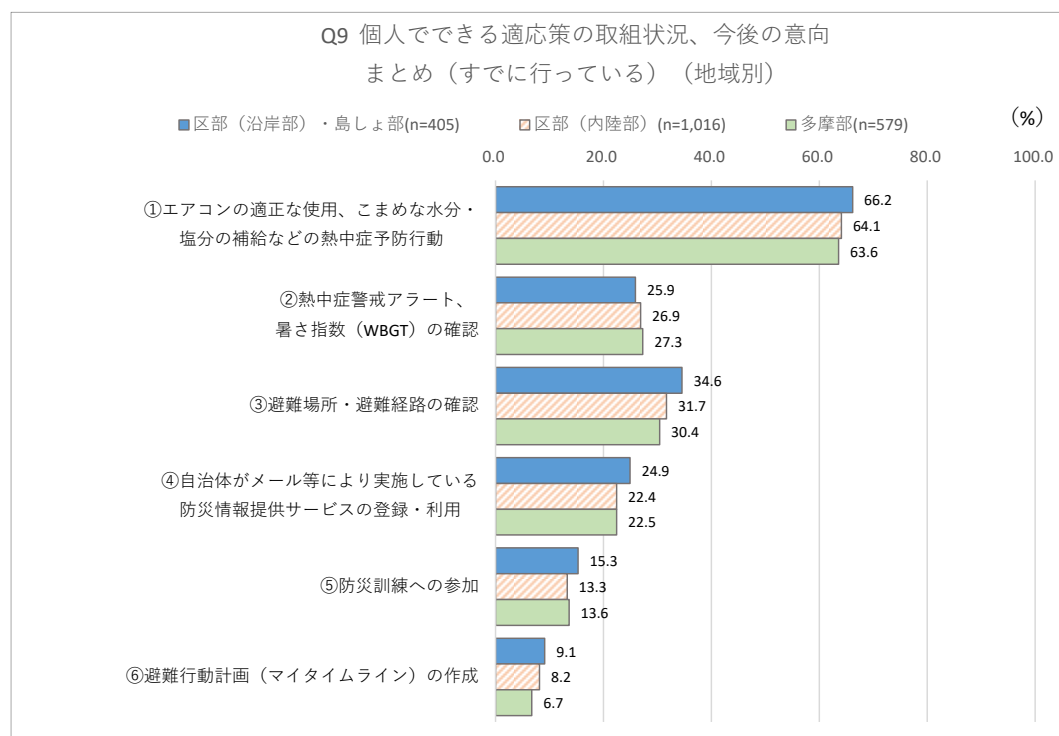


図 3-9-3 個人でできる適応策の取組状況（すでに行っている人の比率：地域別）

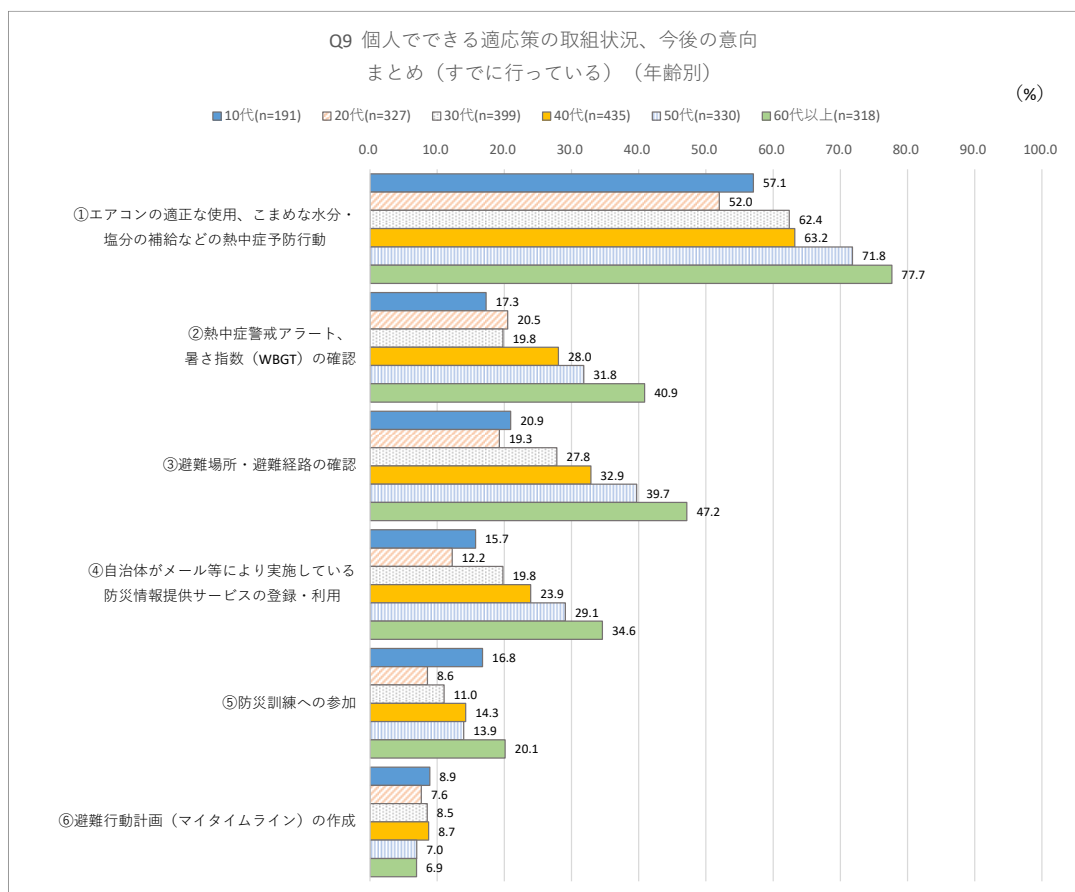


図 3-9-4 個人でできる適応策の取組状況（すでに行っている人の比率：年齢別）

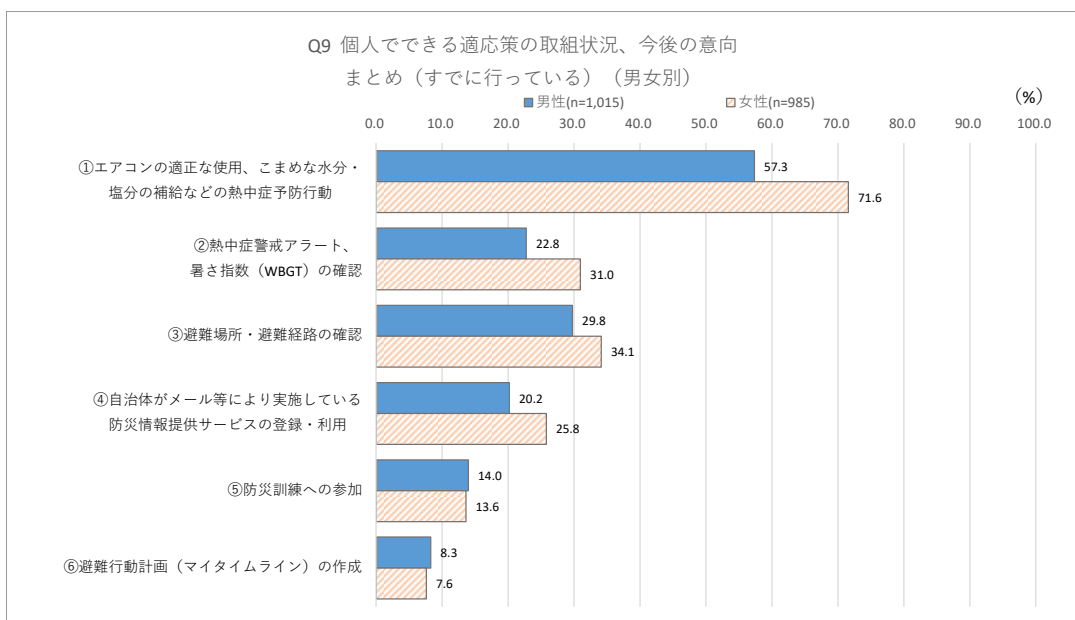


図 3-9-5 個人でできる適応策の取組状況（すでに行っている人の比率：男女別）

3) 「今後行いたい」と回答した人の比率

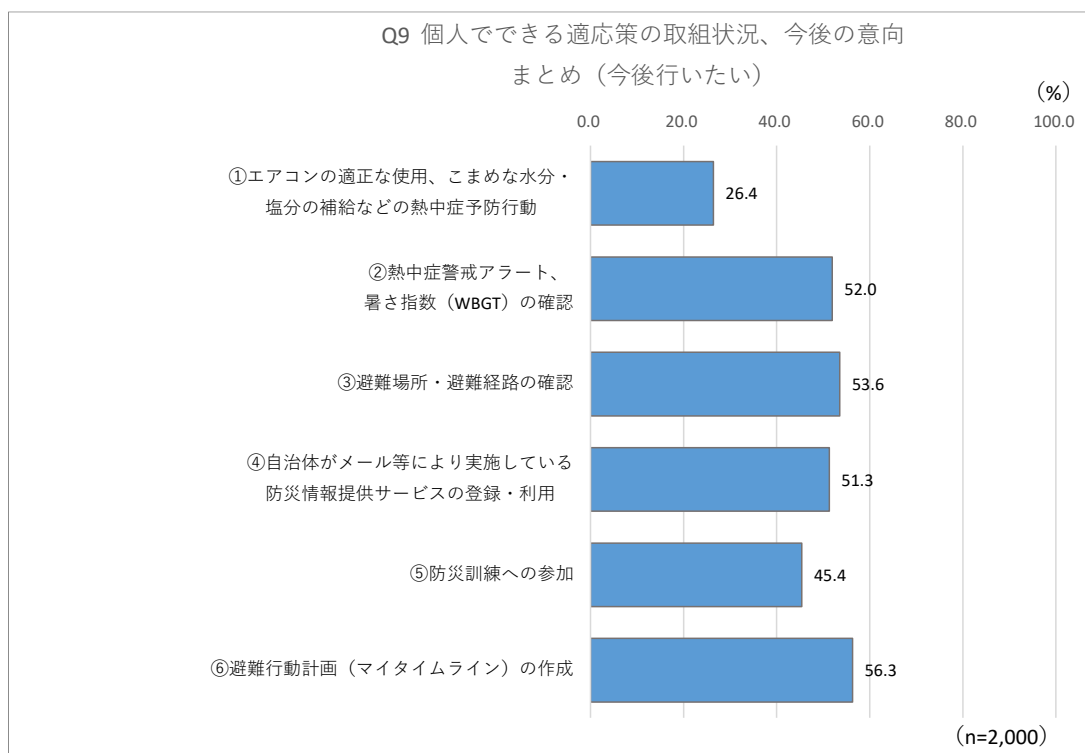


図 3-9-6 個人でできる適応策の今後の意向（今後行いたい人の比率：全体）

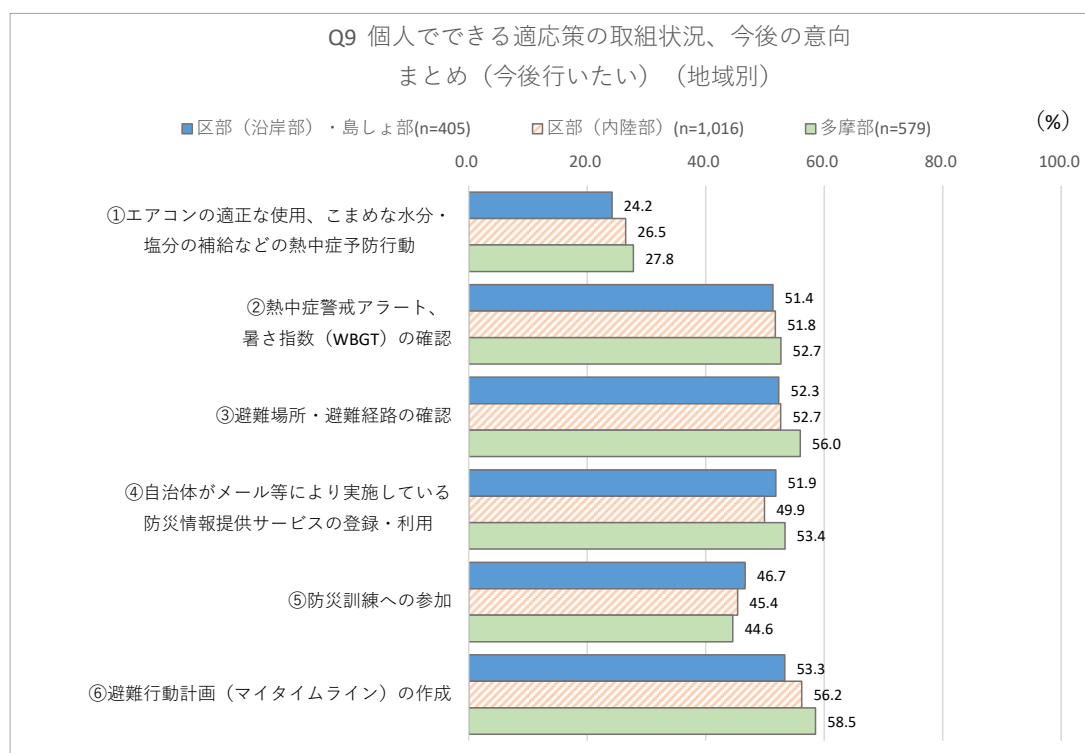


図 3-9-7 個人でできる適応策の今後の意向（今後行いたい人の比率：地域別）

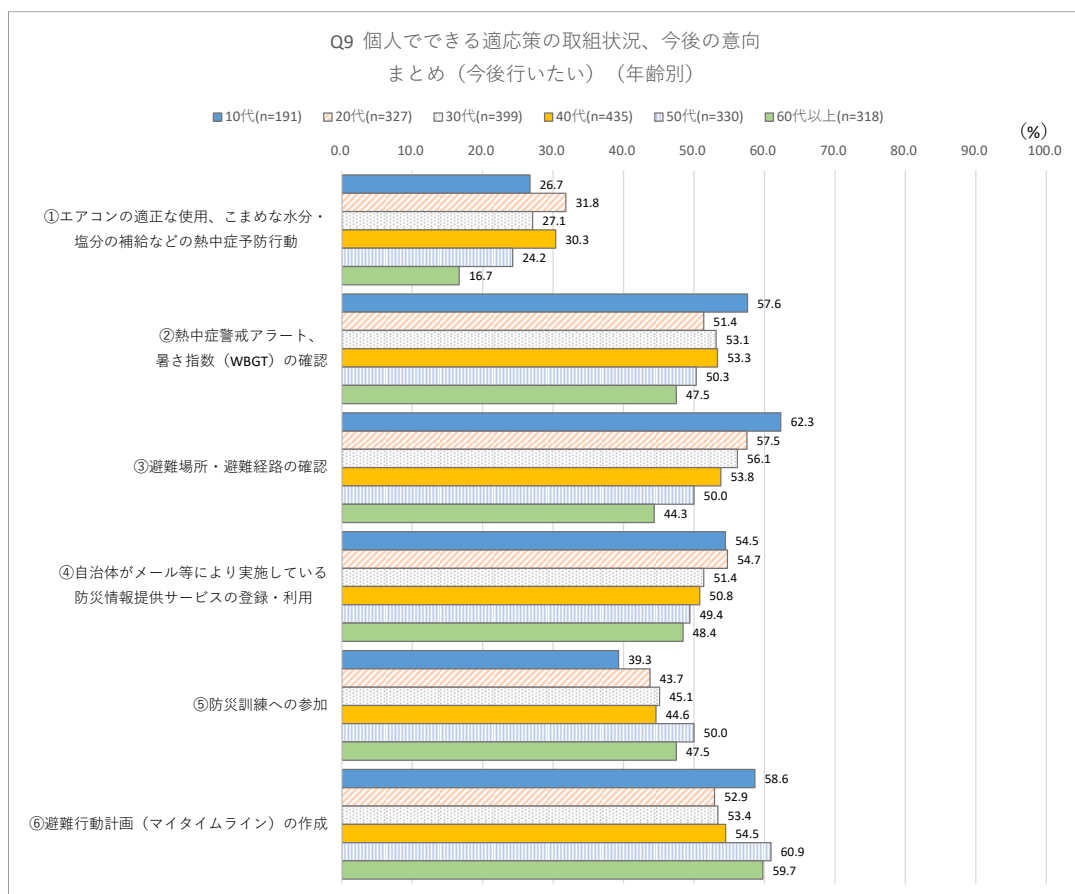


図 3-9-8 個人でできる適応策の今後の意向（今後行いたい人の比率：年齢別）

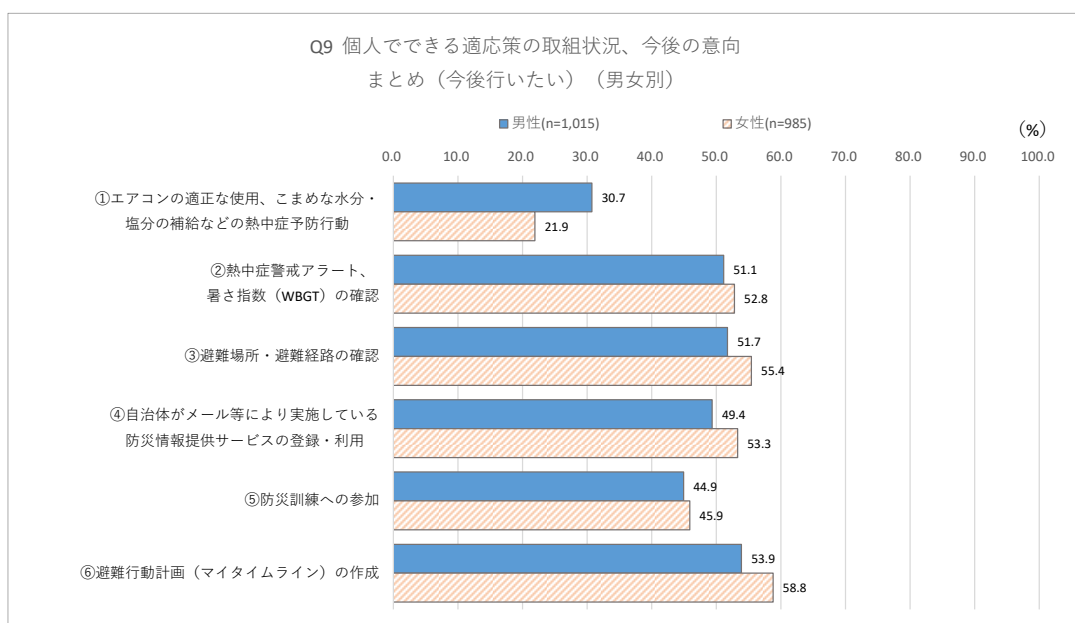


図 3-9-9 個人でできる適応策の今後の意向（今後行いたい人の比率：男女別）

(10) 気候の変化や影響等について必要な情報

気候の変化やその影響に関して必要だと思う情報は、「④身近な地域における気候変動の影響・被害の発生状況」(45.1%)や「②地球規模の気候変動の影響・被害の発生状況」(44.6%)、「①地球温暖化の進行状況」(43.4%)、「⑥身近な地域における気候変動の影響・被害のリスク情報」(42.2%)が4割程度であった。

【地域別】各項目とも地域別での大きな差はない。

【年齢別】①や「③地球規模の気候変動の将来予測」は、10代の回答率が高い。一方④は、30代・40代の回答率が高い。

【男女別】④や⑥、「⑧気候変動の影響に対処し被害を少なくするために、個人・家庭でできる取組の方法」は、女性の回答率が高い。

「⑨その他」の情報としては、「国・自治体の取組」、「地球環境の変動について言われる要因についてのファクトチェック」などの自由回答があった。

**Q10 気候の変化やその影響に関して、あなたはどのような情報が必要だと思いますか。
(特に必要と思うものを3つ選択)**

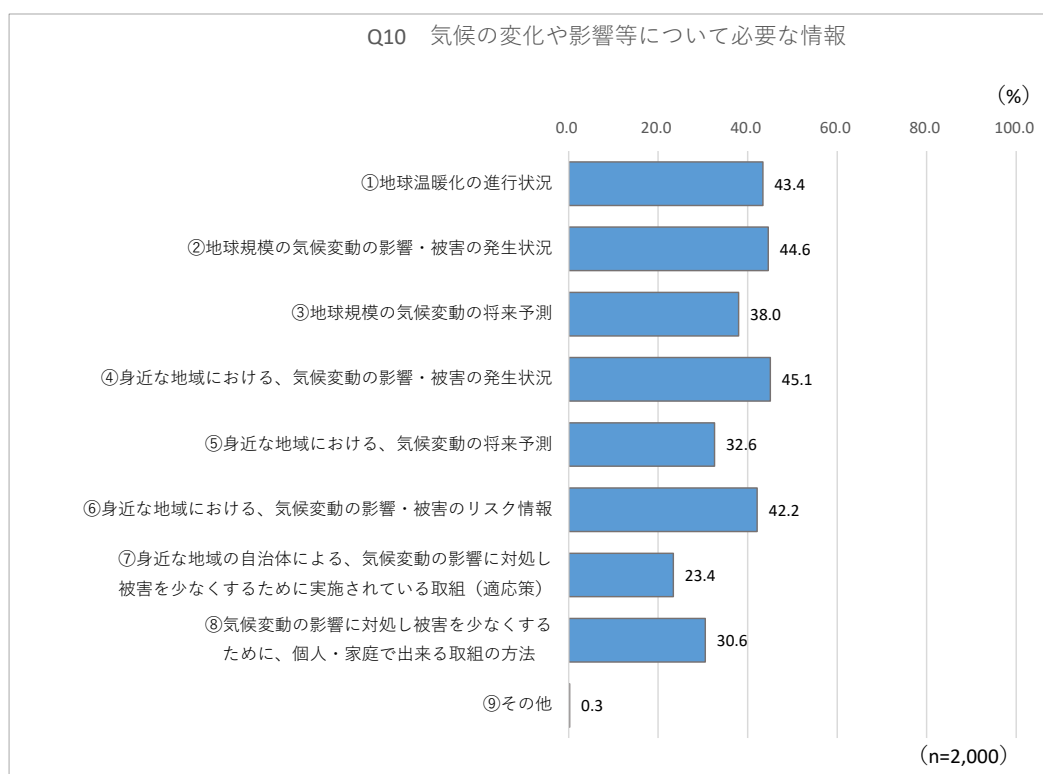


図 3-10-1 気候の変化や影響等について必要な情報（全体）

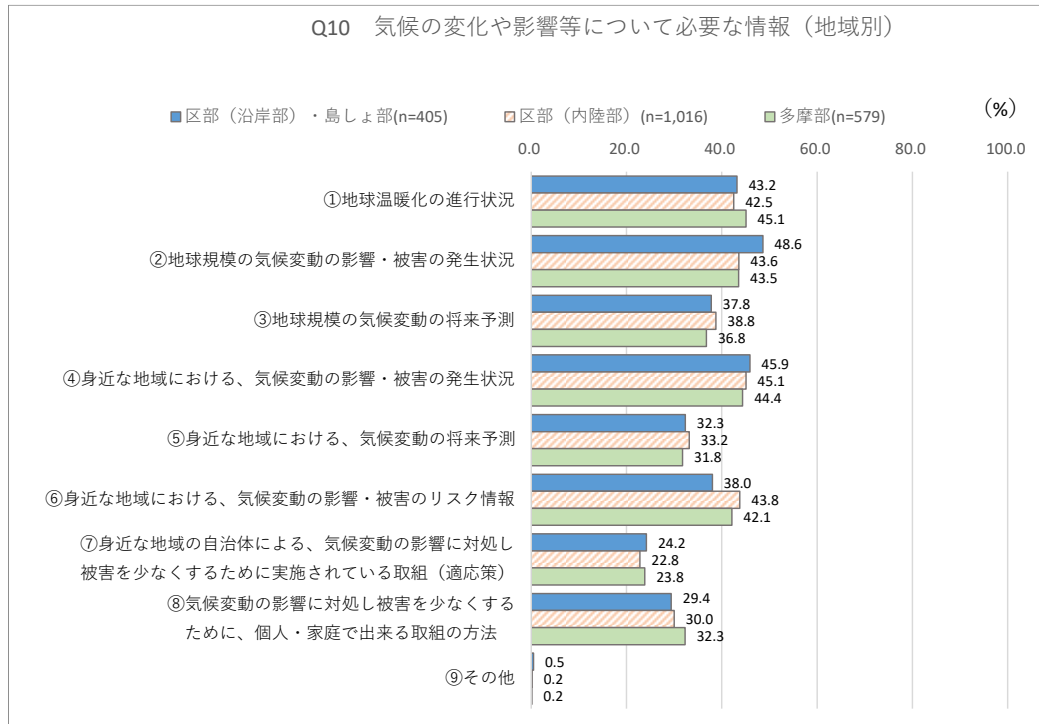


図 3-10-2 気候の変化や影響等について必要な情報（地域別）

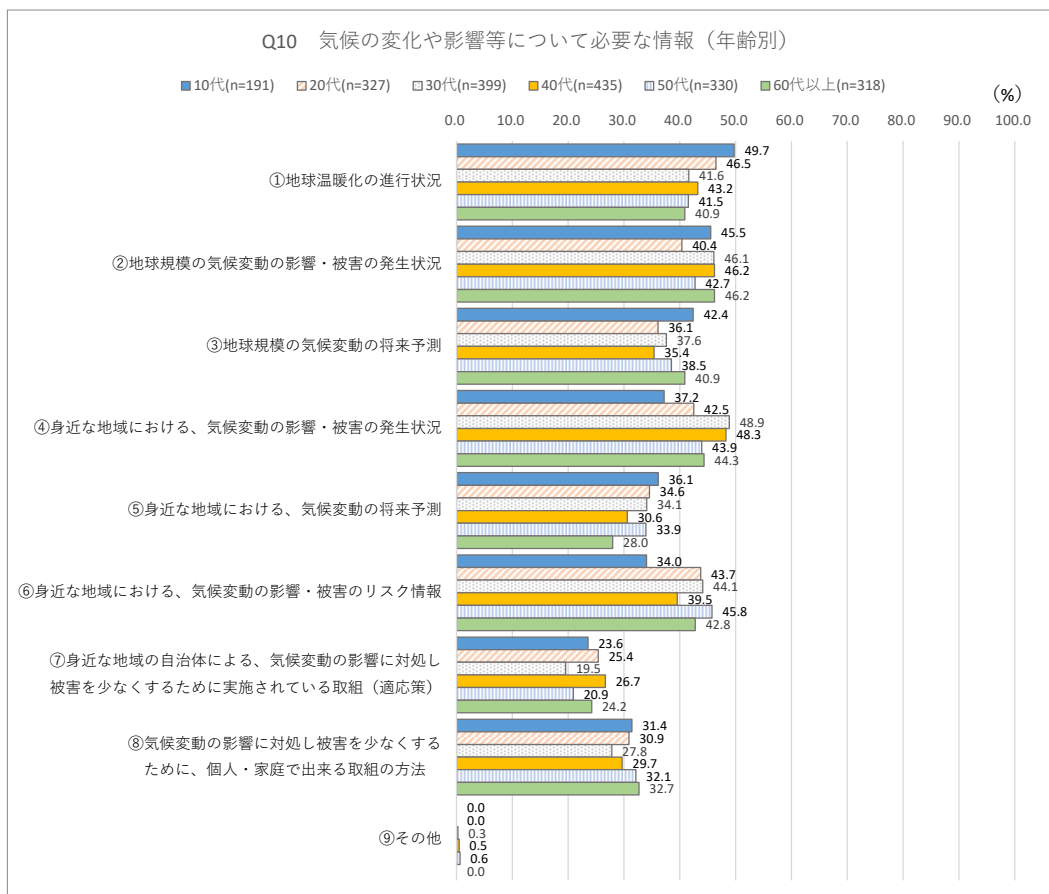


図 3-10-3 気候の変化や影響等について必要な情報（年齢別）

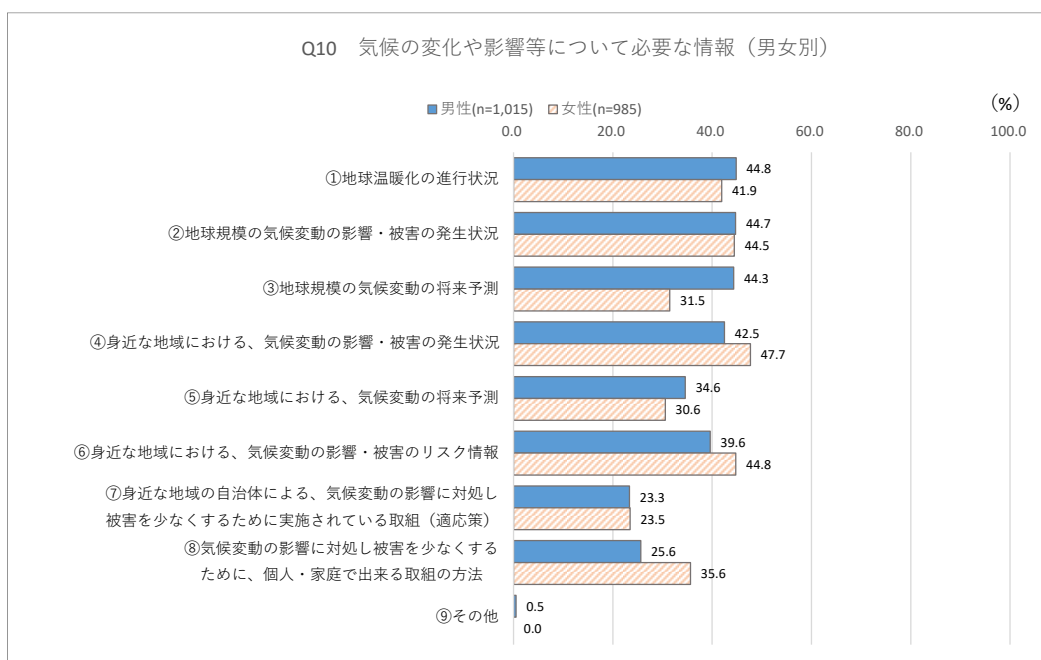


図 3-10-4 気候の変化や影響等について必要な情報（男女別）

**気候変動に関する住民意識調査
住民WEBアンケート結果報告**

2020（令和2）年12月

オール東京62気候変動適応策研究会

事務局：公益財団法人東京市町村自治調査会

〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1

東京自治会館4階

資料作成： **アオイ環境株式会社**

〒108-0073 東京都港区三田2-17-29

オール東京62気候変動適応策研究会

東京都内の市区町村が学識者・研究機関・専門家の知見を共有し、ともに学び合いながら、それぞれの地域に合った適応のための取組や適応計画の策定を目指す取組などについて研究活動を行っています。

<https://www.all62tekiou.jp/>